

2025 年度
自己点検評価年次報告書
【短期大学部】

目白大学短期大学部

部門別「自己点検評価年次報告書」の目的

目白大学・目白大学短期大学部内部質保証委員会

本学の内部質保証は、学長のリーダーシップのもと、大学の理念や方針に従い、現在の教育、研究、管理運営、社会貢献などの活動について、自らが現状を振り返り、向上と健全化を目指すために、ひたむきに改善を継続するプロセスが重要だと考えます。

その目的を果たすために、年度ごとの振り返りを行い、PDCAサイクルを用いた「報告書」で可視化することで、各教職員や各学科等の現在地や問題点の気づき、改善、あるいは維持のプロセスを確認し、本学の目標の再確認を行います。

この『部門別自己点検評価年次報告書』は、本学の教育活動の主軸である各学部、学科と附属施設及び委員会・センターの自己点検・自己評価です。各部門での教育の改革・改善の振り返りや次年度目標といった改善プロセスを大学内外に公開・共有することで、向上心と改革に前向きな姿勢を持続させ、教育の質の向上と健全化に取り組みます。

目 次

凡 例	1
短 期 大 学 部	3
専門科目アセスメント・ポリシー	21
各 種 委 員 会	31

凡 例

2026 年 5 月 1 日

本報告書に記載する項目の定義並びに数値の算出方法は以下の通りとします。

- 学生数 …… 正規課程所属の在学生。留学生数含む。研究生や科目等履修生は含まない。
(大学院・大学・短大)
- 専任教員数 …… 大学学部と短大各学科における所属でカウントするほか、大学院に所属する教員はその専攻でも専任教員として、研究所に所属する教員はその研究所でも研究員としてカウントする。
(本学では人事取扱い上、全ての大学教員は学部または短大のみに専属し、大学院は当該研究科所属であっても併任扱いとなっているが、本報告書で全ての大学院教員をカウントしないことは実態から乖離し、本報告書の趣旨にそぐわないため)
- 授業科目数 …… その学期に設定されている授業科目の数。
- ・ 学則に記載されている専門教育科目 (学部共通科目を含む)、及び学科別開講の共通科目を基準とする。ただし、履修登録前に閉講が確定している (隔年開講・教員急病など) 科目はカウントしない。
 - ・ 1つの授業に複数のコマが設定されていても1科目と数える。
 - ・ 履修学生ゼロによる閉講科目は1科目と数える。
 - ・ 新カリキュラム・旧カリキュラムで科目名が変わるが同じコマで実施している場合は2科目・1コマでカウントする。
 - ・ 「臨地研修」など、開講年度・学期の履修登録期間 (閉講講義確定) 以後に、学生による履修登録によらず開講が確定する科目は、実績に基づき開講された科目数をカウントする。
 - ・ 学外実習科目・卒業研究・留学期間の振替対応科目・臨地研修は1科目としてカウントするが、コマ数はカウントしない (学内で実習報告の授業等をすることがあっても同様)。
 - ・ 再履修用授業を別途に実施している場合は、同一科目名であれば本体の授業と別扱いせず、コマ数のみカウントする。
 - ・ 通年実施の科目、及び卒業研究や臨地研修など学期ごとに完結する実態のない科目は「通年／その他」に分類して数える。
 - ・ 同一科目を複数の学科の学生が一緒に履修する形態で実施している場合は、それぞれの学科に全コマ数を加算する (全学科の合計コマ数が実態より多くなる)。
 - ・ 学部共通の専門教育科目は科目数・コマ数ともに各学部所属学科に単純加算する (全学科の合計科目数・コマ数が実態より多くなる)。
- 開講総コマ数 …… その学期に実際に開講 (≠実施) されているコマ数の合計。
- ・ 学則に記載されている専門教育科目 (学部共通科目を含む)、及び学科別開講の共通科目を基準とする。
 - ・ 1つの授業に複数設定されているコマは別々に数える。
 - ・ 開講したが結果的に履修学生が開講基準以下で実施しない場合も、コマとしてカウントする。
 - ・ 8回授業等の場合は教務課のコマ数換算方法に準拠する。

		・ 非常勤講師の担当コマ数については実績に従い算出し、小数点第 2 位で四捨五入する。
○進路状況	……	年度末で確定した、卒業生の進路状況。 ・ 就職は正規雇用または非正規雇用（契約社員（1 年以上または 1 年未満）で就職した卒業生、進学は大学院、大学、専門学校、留学が確定した卒業生、その他はアルバイト、家事手伝い、結婚、資格取得準備中、進学準備中、留学準備中、公務員試験準備中、科目等履修生、研究生、聴講生の卒業生とする。
○科研費助成金	……	シート提出組織（学科）に所属する 1 名以上の構成員が獲得した件数と金額の合計。 ・ 研究代表者のみカウント（2 研究課題を採択されているものは、2 とカウント） ・ 分担金配分前の総配分額（直接経費・間接経費の合計）を記載。 ・ 延長課題（当該年度配分なし）は含まない。 ・ 年度途中での退職者分も含む。 ・ 厚生労働省科研費も含む。
○特別研究費	……	シート提出組織（学科）に所属する 1 名以上の構成員が獲得した件数と金額の合計。 （教育研究環境整備助成は研究内容に着目するのではなく当該年度の新任者の研究環境整備のために支給されるものなので、本欄では除外する。）
○他学科等所属 専任教員数	……	授業科目数にカウントした科目を担当する他学科所属の専任教員数。

以上

短期大学部

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価	シート4 (短大学長・学部長・研究科長)	評価対象年度	2025年度(令和7年度)
カテゴリー	教育課程(総括)		
学部名・研究科名	短期大学部		
記入者氏名(役職)	小松 由美(学長)		

(1) 特筆すべき事項

【私立大学等経常費補助金に係る「少子化時代を支える 新たな私立大学等の経営改革支援」】

©2024年度に「少子化時代をキラリと光る教育力で乗り越える、私立大学等戦略的経営改革支援」に申請し、採択を受けた「首都圏型地域協創コミュニティカレッジへのリイマジニング」に掲げた計画を引き続き進めた。

補助期間は2024年度～2028年度までの5年間である。(採択は45校／110校、うち短期大学13校、都内では新渡戸文化短期大学と2校のみ)

- ① 2026年度より短期大学部の入学定員を190名から170名、収容定員を440名から400名へ変更する申請を行った。
 - ・製菓学科の入学定員55名を50名、ビジネス社会学科の入学定員75名を60名とした。
- ② 各学科の取り組みを推進した。
 - ・製菓学科:留学生の入学可能性を探るため、韓国・台湾・ベトナムでの日本留学フェアに参加した。
 - ・ビジネス社会学科:地域連携特待生制度を新設した。また、新宿区との地域連携をさらに強化した。
 - ・歯科衛生学科:社会人の受け入れを見据え、専門実践教育訓練給付金制度の申請に向け、国家試験の合格率を向上させる。

【教育(学生指導を含む)】

- ① 第5次中期目標・中期計画の2年目となる2025年度は、建学の精神及び教育理念に基づき、教育目標を明確にし、3つのポリシー(AP、CP、DP)を一貫性のある構造へと再整理した。卒業認定・学位授与等の方針に関する規程を、短大を独立した体系にするため見直しを行った。
- ② 「目白大学短期大学部特待生奨学金制度」は44名が受験し、12名が合格した(製菓学科5名、ビジネス社会学科4名、歯科衛生学科3名)また、入学定員を変更したことに伴い、「目白大学短期大学部特待生奨学金に関する規則」を改正した。(2027年度入学者選抜から適用)
- ③ メジプロ(e-ラーニング)を用いた入学前教育(ベーシックコース)は100%の実施率であった。入学後のステップアップコースの実施率は、製菓学科100%、ビジネス社会学科98.7%、歯科衛生学科は95%であった。終了後の効果測定のため基礎学力テストを2回実施し、その結果とGPAを連動して把握することによって教育に反映した。
- ④ インターンシップ(製菓学科・ビジネス社会学科)の参加者数は、昨年度の35名から53名に増加し、151%となった。
- ⑤ ディプロマ・ポリシーに基づく「卒業における学修成果アセスメントテスト基準」による学修成果確認試験は、3学科全学生が合格した。
- ⑥ 国家試験の合格者は、製菓学科16名、歯科衛生学科59名(うち既卒13名)であった。資格取得奨励金の授与者は昨年度の97名から195名へと倍増し、ピーク時(2021年度163名)の120%となった。
- ⑦ 就職支援部において全学生に面談を実施した。求職者に対する内定率は100%であった。
- ⑧ 大学への編入は7名(学内6名、学外1名)であった。
- ⑨ 昨年度に比べて休・退学者は低く抑えることができ、中途退学者は7名(退学率1.84%)だった。(2024年度は11名)
- ⑩ 2024年度実施の「全国学生調査(第4回施行実施)」において、製菓学科がポジティブリストに掲載され、学生が学びを通じて成長を実感できる教育方法・内容が高く評価された。(2025年9月30日文科科学省公表)

【研究】

- ① 短期大学部独自で以下のようなFDを実施した。
 - ・教授会終了後に研究発表会を実施し、持ち回りで各教員の研究テーマ等の報告を行った。
 - ・研究交流会は「短期大学における情報系授業の実際」と題し、目白大学の情報教育担当教員を招いて実施した。
 - ・教員相互授業参観は春と秋の2回(1回は他学科の授業)実施し、実施率は100%であり、ピアレビューにより教育の向上を目指した。
- ② 「学生による授業評価アンケート」は各教員が改善点を含むコメントを記入し、図書館に配架・公開した。
- ③ 研究紀要への発表数は5編と減少した。投稿者が固定化しつつある。
- ④ 外部資金の獲得は、科学研究費に1名が応募し、採択された。

【管理運営】

- ① 私立大学等経常費補助金採択により、入学定員の変更を行い、学則、卒業認定・学位授与等の方針等を整理し、方向性を固めた。
- ② 会議は対面とTeams開催を併用したが、教授会はコロナ禍前の対面開催に戻した。情報共有は効率的に実施されている。
- ③ 「外部評価委員会」を開催し、本学自己点検評価に対する客観的な意見を得ることができた。
- ④ 「高大連携のための懇談会」は授業見学を含め、対面形式で2回(5月・12月)開催した。就職先「企業との懇談会」はZoomで開催し、ステークホルダーとの重要な意見交換を行った。
- ⑤ 定年退職する教員の後任確保と、教員の教育力の向上に努めた。
- ⑥ 入学定員の確保に努めた。2025年度入学生は、173名(入学定員の91.0%)、在籍者数は381名(収容定員の86.6%)と前年度を上回った。

【社会貢献】

- ① 公開講座は中井町会をはじめ大学周辺の町内会へ働きかけたほか、校友会の「校友だより」や新宿区区報等へ掲載し広報した。参加者はテーマによって伸び悩んだ。
- ② 地域連携の促進に努めた。
 - ・ビジネス社会学科:新宿区「大学との連携による商店街支援事業」として西落合旭通り商店会との地域連携を継続実施した。
 - ・製菓学科:包括連携先の米屋(株)との連携を再開した。
 - ・歯科衛生学科:公益法人新宿未来創造財団子ども支援課の要請を受け、2026年度に向けて子ども向けイベント事業への参加を検討した。

(2) 今後の課題

【私立大学等経常費補助金に係る「少子化時代を支える 新たな私立大学等の経営改革支援」】

- ① 2026年度は「卒業認定・学位授与等の方針に関する規程」を改正し、2027年度施行を目指す。
- ② 各学科が掲げた方針及び実施計画に則り、着実に改革を実施する。

【教育(学生指導を含む)】

- ① 教育目標から3つのポリシーまで一体的に見直した内容に加え、学修成果とその評価方針を確定し、教育課程との連動を明確化する。関連する規程を改正し、2027年度施行を目指す。
- ② 「目白大学短期大学部特待生奨学金制度」合格者の入学後の成績等を検証し、試験内容を見直し、より優秀な志願者の確保を継続する。
- ③ メジプロ(e-ラーニング)の効果測定結果とGPA等との相関を分析し、基礎学力の定着と学修成果の向上への寄与について検証する。
メジプロの着手・進捗状況や出席状況から、支援が必要な学生や休・退学の予兆を早期に把握する。ステップアップコース100%達成を目指す。
- ④ インターンシップ先のさらなる開拓を進め、連携強化を図る。(製菓学科・ビジネス社会学科)。臨床・臨地実習先を拡充する。(歯科衛生学科)
- ⑤ 学修成果及び学修成果の評価方針を確定し、評価方法を決定する。「卒業における学修成果アセスメントテスト基準」による学修成果確認試験は3学科全学生の合格を維持する。
- ⑥ 国家試験の合格率を向上させる。(製菓衛生師100%の再達成、歯科衛生士現役合格率90%の実現)
各種資格取得に向けたサポートと、資格取得奨励金の周知・活用により、学生の学修意欲を喚起し、受験者数の増加につなげる。
- ⑦ 就職環境の変化に対応し、入学後早期からキャリア意識を効果的に高められるよう、卒業生によるキャリア講演等を継続的に実施し、職業理解を深め、学修内容と将来の進路との関連を具体的に認識させる。
- ⑧ 目白大学への円滑な編入体制を生かし、早期に希望者を把握しオリエンテーションを行うほか、外部への編入学にも力を入れる。
- ⑨ 中途退学率を第5次中期目標・中期計画に掲げている目標値の1.5%に近づけ、低く抑えるよう努める。
- ⑩ コンピテンシー基盤教育の核となる科目の教育内容とその方法・評価基準・評価方法を精査する。

【研究】

- ① 短期大学部独自のFDは、教員個々の研究発表だけでなく、新たな試みも導入し、特に若手教員の教育力・研究力の向上を図る。
- ② 「学生による授業評価アンケート」の回答率を向上させ、教員の授業力向上に繋げる。
- ③ 研究紀要への年一本の論文投稿を促進するため、論文作成等について助言・支援を行う体制を検討・整備する。
- ④ 外部資金等の獲得のため、経験を有する教員の助言を受ける機会を設けるなど、研究支援体制を検討する。

【管理運営】

- ① 2028年度の認証評価受審に向け、本格的に準備体制を整える。一般財団法人大学・短期大学基準協会の機関別認証評価の基準に適合する体系へ再構築するため、「卒業認定・学位授与等の方針に関する規程」を改正する。
- ② 校務は業務負担のバランスを考え、学科を横断して人材を配置する。情報共有を徹底し、PDCAを意識した運営を徹底する。
- ③ ステークホルダーの懇談会を効果的に開催する。
 - ・高大連携のための懇談会の内容を見直し、高校への広報方法を再検討する。
 - ・就職先企業との懇談会は、現在Zoom開催であるが、開催時期や内容を見直し、活性化を図る。
 - ・外部評価委員会は、広く意見を聴取できるよう委員を増員し、教育改善に反映できるようにする。
- ④ 教員の世代交代を踏まえ、2028年度の認証評価受審に向け、特に若手教員が中心となって運営を担えるよう、次世代教員の育成を推進する。将来的な教育体制を踏まえ、中長期的な人事計画に基づいて教員公募等を実施する。
- ⑤ 学生募集を取り巻く環境は厳しさを増しており、苦戦する傾向にあるが、短大一丸となって学生確保に努める。
 - ・オープンキャンパスの内容を精査し改善するとともに、3学科とも目短スタッフの教育に力を入れる。
 - ・オープンキャンパスや学科イベントへ来校した生徒に対するフォローアップをこまやかに行う。
 - ・オープンキャンパスに参加せずに受験するケースも見られることから、入試広報部との連携を密にし、入学者の確保に結びつける。
 - ・高校訪問等を通じ、高校教員に対して認知を高め、志願者の情報を早期に把握し情報を共有する。

【社会貢献】

- ① 私立大学等経常費補助金に係る「少子化時代を支える新たな私立大学等の経営改革支援」事業推進のため、産学官連携による協創体制を構築し、地域と連動した教育活動の強化を図る。
- ② 教員の研究成果を社会に還元することを念頭に置いて、公開講座の実施内容・実施時期・ターゲットを再検討し、広報をさらに工夫して参加者の増加につなげる。また、地域連携活動を促進し、短期大学部の魅力発信力アップにつなげる。
- ③ 学生の地域貢献を推進する仕掛けを作りを積極的に進める。
 - ・製菓学科:包括連携協定先の米屋とのインターンシップをはじめ、実践的教育の充実と産学連携のさらなる強化を図る。
 - ・ビジネス社会学科:新宿区との「大学等との連携による商店街支援事業」を継続し、地域連携特待生を中心に地域活性化に寄与する。
 - ・歯科衛生学科:新宿区健康部との包括協定に基づく「保育園・幼稚園等歯科健康教室」事業に継続して参画する。また、公益法人新宿未来創造財団子ども支援課からの依頼に応え、子ども対象のイベント開催を企画する。

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価			評価シート1		学科名		製菓学科	
評価対象年度					2025年度(令和7年度)			
入 学 定 員		55 名	設置基準上の 必要教員数	専任教員数	5 名			
収 容 定 員		110 名		教授内数	2 名			
学 生 数 (5/1現在) ※含留学生	1年	37 名	専 任 教 員 数 (5/1現在)			特任内数	博士内数	
	2年	33 名		教 授	2 名	0 名	0 名	
	3年	— 名		准 教 授	1 名	0 名	0 名	
	4年	— 名		専任講師	2 名	0 名	0 名	
	計	70 名		助 教	0 名	0 名	0 名	
				計	5 名	0 名	0 名	
入 学 定 員 充 足 率		67 %	助 手	3 名	0 名	0 名		
収 容 定 員 充 足 率		64 %	他学科等所属専任教員数 (5/1現在)		5 名			
休 学 者 数 (年度末集計)		3 名	非常勤講師数 (5/1現在)		10 名			
退学・除籍者数 (年度末集計)		3 名	授 業 科 目 数	春学期	26 コマ			
卒 業 生 数		31 名		秋学期	17 コマ			
標準修業年限内卒業率(2024年度入学)		94 %		通年/その他	0 コマ			
進 路 状 況 (年度末集計)	就 職	29 名	開 講 総 コ マ 数	春学期	52.5 コマ	内非常勤 担当	17.8 コマ	
	進 学	1 名		秋学期	45 コマ		9 コマ	
	その他	1 名		通年/その他	0 コマ		0 コマ	
	計	31 名	科学研究費等補助金 ※当該年度配分額		0 件	0 千円		
就職率(就職者数/卒業生-進学者)		97 %	特別研究費(除教育研究環境整備助成) ※当該年度配分額		0 件	0 千円		
社会貢献関連項目		件数	具 体 例					
産学連携(企業・団体)		1 件	2025年度入学者を対象とした企業見学と体験実習を、包括連携先である米屋株式会社様で実施した。					
地域連携(自治体・団体)		6 件	・体験実習(製菓フェス含む)は5回実施した。 ・短期大学部の「公開講座」は、和菓子制作を実施した(参加者24名)					
所属学会、団体、企業等 ※役員等名も記載		5 件	東京和菓子協会本部理事(監査役) 一般社団法人 日本食育学会 一般社団法人東京都洋菓子協会 日本栄養改善学会 千葉県技能士会連合会					
その他社会貢献事業 (高大連携など)		0 件						

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価	シート2 (学科長記入)	評価対象年度	2025年度(令和7年度)
カテゴリー	教育課程		
学部・学科	製菓学科		
記入者氏名(役職)	伊藤 浩正(学科長)		

項目	2024年度 自己点検評価
教育 (学生指導含む)	課題と2025年度の改善目標(Action)
	① 実習室でのマスク着用試食以外の食事の禁止、更衣室は更衣のみ速やかに使用するなど引き続き使用方法について徹底を図る。
	② 引き続き退学者及び休学者を最小限に抑える。
	③ 製菓衛生師試験に対するモチベーションが下がらないよう士気向上に努める。
	④ コロナ感染症はほぼ終息しているが、他の感染症及び衛生面を考え、引き続き学内での感染に注意を図る。
	⑤ 就職を希望している学生に対しては、就活状況報告書をもとに早期より声がけをし、必要であれば面談をして就職活動を促す。
	改善に向けての具体的な計画(Plan)
	① 実習室、更衣室の使用方法について徹底を図る。事前事後学習用のGoogleClassroom、SchooSwingは引き続き活用する。
	② 欠席過多、体調不良の学生は、担任が学生もしくは保護者と連絡を取り現状を把握し学科で情報共有し、早期に対策を講じる。
	③ 製菓衛生師試験直前講座は全員が出席するよう注意喚起する。
	④ 衛生面の観点からもマスク着用は引き続き遂行する。
	⑤ 学生の就職活動が学科教員で共有できるよう毎月の学科会議で報告し、ドライブに就活状況を入力し共有する。

項目	2025年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入
教育 (学生指導含む)	1. 取組状況(Do)
	① 新入生オリエンテーションで「実習室使用に関するルール」資料を配布して注意事項の徹底を図った。ロッカールーム使用に関しても使用に関するルールの徹底を図った。
	② 1年生はクラス担任による面談(5月)を実施したほか、助手・クラス担任を中心に年間を通して学生の様子を観察し、学科会議にて情報共有を行った。
	③ 製菓衛生師試験と同様の模擬試験形式での対策講座を実施した。模擬試験成績不良学生には別途指導を実施した。
	④ 衛生面の観点から実習授業はすべて不織布マスクを着用して実施した。
	⑤ 引き続き就職活動報告は毎月月初旬に就活状況を紙面で提出することとし、実施した。
	2. 点検・評価(Check)
	① 感染症等疾病の報告はなかったが、衛生面では製菓現場ではマスク着用が日常化していることから、マスク着用を継続していく。
	② 退学者2名、休学者1名であった。
	③ 製菓衛生師試験は21名が受験し16名が合格した。合格率は76.2%であった。(千葉県合格率42.5%)
	④ 学科内での感染症の流行は確認されなかった。
	⑤ 就活状況の報告書は、毎月提出率を集計しているが、平均は95.9%程度となっている。
	3. 課題と次年度の改善目標(Action)
	① 「実習室使用に関するルール」資料をもとに注意事項の徹底を図る。ロッカールーム使用に関しても使用に関するルールの徹底を図る。
	② 引き続き退学者及び休学者を最小限に抑える。
	③ 国家試験である製菓衛生師試験との対峙の見直しと、履修指導の見直しが不可欠である。
	④ 食品製造現場での衛生管理に準じた指導を行う。
	⑤ 年度初めに学生の希望進路を把握し、スケジュールに合わせた指導を行う。
	4. 改善に向けての具体的な計画(Plan)
	① 1年生はオリエンテーション、2年生は初回授業で「実習室使用に関するルール」に関する説明を実施し、更衣室の使用状況を定期的にチェックする。
	② 遅刻欠席過多、体調不良の学生は、担任が学生、保護者と段階的に連絡を取り現状を把握し学科で情報共有し、早期に対策を講じる。
	③ 製菓衛生師試験直前講座は例年通り全員参加必須とし、実施内容の一部見直しを検討する。偏った履修にならないように登録の際指導する。
	④ 衛生面の観点からもマスク着用は引き続き遂行する。
	⑤ 学生の就職活動が学科教員で共有できるよう毎月の学科会議で報告し、ドライブに就活状況を入力し共有する。ゼミ・クラス担任の枠を超えて個別かつ包括的に対応する。

項目	2024年度 自己点検評価
研究	課題と2025年度の改善目標(Action)
	① 短大研究発表会に向けて発表の準備をする。
	② 出来る限り毎年1本は紀要を投稿するよう促し個別の面談の際意向を聴取し必要に応じて支援する。
	③ 引き続き、できる限り学生を希望のゼミに配置し、卒業年次生全員が両学期とも期日内に卒業制作作品を提出できるようにする。
	改善に向けての具体的な計画(Plan)
	① 短大研究発表会に向け滞りなく発表ができるよう、発表の準備をし、テーマが決められている場合は沿うよう準備をする。
	② 紀要の投稿が採択に結びつくよう本人の希望に応じて助言をする。
	③ 作品提出の期日を遵守させるため、技術だけでなく、製作スケジュールについても適宜指導を行う。

項目	2025年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入
研究	1. 取組状況 (Do)
	① 短大研究発表会は個別発表と任意のテーマを設けての発表がなされた。 ② 学科教員が短期大学部紀要に共著論文1本を投稿した。 ③ 多少の人数調整はなされたが、最終的に全員が自身の選択でゼミを決定した。
	2. 点検・評価 (Check)
	① 担当発表者は滞りなく発表がなされた。 ② 学科教員による共著論文1本は、査読の結果短期大学部紀要に採択されなかった。 ③ 卒業年次生全員が、両学期とも期日内に卒業制作作品を提出した。
	3. 課題と次年度の改善目標 (Action)
研究	① 短大研究発表会に向けて発表の準備をする。 ② 毎年1本は紀要を投稿するよう促し個別の面談の際意向を聴取し必要に応じて支援する。3年後の認証評価に向け、専任教員全員の紀要投稿を促進する。 ③ 引き続き、できる限り学生を希望のゼミに配置し、卒業年次生全員が両学期とも期日内に卒業制作作品を提出できるようにする。
	4. 改善に向けての具体的な計画 (Plan)
	① 短大研究発表会に向け滞りなく発表ができるよう、発表の準備をし、テーマが決められている場合は沿うよう準備をする。 ② 特に期限付き雇用の専任教員については、紀要の投稿が採択に結びつくよう本人の希望に応じて助言をする。 ③ 作品提出の期日を遵守させるため、技術だけでなく、製作スケジュールについても適宜指導を行う。

項目	2024年度 自己点検評価
管理運営	課題と2025年度の改善目標 (Action)
	① 製菓学科では衛生上の観点から、実習時のマスク着用は必須としていく。 ② 学科長連絡会は、引き続き3学科で協力し情報共有に努める。 ③ 2025年度末で定年を迎える教員の後任に関しては、できるだけ早期に任用を申請し対応する。助手に関しては同年に複数人退職にならないように管理運営に当たる。 ④ 感染症及び体調不良者の実習参加に関しては、本人や保護者と連絡を取り適切に対応する。 ⑤ 次年度入学者は前年より4名増加したが、定員充足率は70%程度と大幅に不足しているため、定員充足率80%以上を目指す。
	改善に向けての具体的な計画 (Plan)
	① 実習時にマスク着用を徹底する。 ② 学科長連絡会は定期及び必用に応じて臨時で開催し3学科協力する。 ③ 学科内人事計画について正副学長、学科内で協議し早期に任用申請を提出する。 ④ 実習授業はすべて不織布マスクを着用して実施し、ゼミやベーシックセミナー、キャリアデザイン授業で感染症や体調不良時の対応に関して指導する。 ⑤ 学び体験の内容やプログラムの時間配分、製菓フェスの実施など、学科独自の取り組みを継続する。ばらつきのあるInstagramの投稿を週1回程度安定して行う。

項目	2025年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入
管理運営	1. 取組状況 (Do)
	① インフルエンザの流行や衛生上の観点からもマスク着用で実施した。製菓現場ではマスク着用が日常化していることからマスク着用を徹底した。 ② 学科長連絡会は定期及び必要に応じて臨時で開催した。 ③ 定年、任期満了での退職、昇進があるので早期に対応した。
	2. 点検・評価 (Check)
	① 実習中のマスク着用は徹底でき、衛生上の事故はなかった。 ② 学科長連絡会は定期及び必要に応じて臨時で開催し3学科協力のもと円滑に開催できた。 ③ 次年度より勤務の専任講師、助手の採用は完了した。昇進の教員に関しても無事完了した。
	3. 課題と次年度の改善目標 (Action)
管理運営	① 学科長連絡会は、引き続き3学科で協力し情報共有に努める。 ② 退職教員の後任に関しては、できるだけ早期に任用を申請し対応する。助手に関しては同年に複数人退職にならないように管理運営に当たる。 ③ 学科創設20周年と節目にあたるので、話題性のある企画を立案し実施する。
	4. 改善に向けての具体的な計画 (Plan)
	① 学科長連絡会は定期及び必用に応じて臨時で開催し3学科協力する。 ② 学科内人事計画について正副学長、学科内で協議し早期に任用申請を提出する。 ③ 製菓学科が管理運営している菓子販売ブースの店名を学内で公募し、桐和祭で広報する。

項目	2024年度 自己点検評価
社会貢献	課題と2025年度の改善目標 (Action)
	① 次年度入学者は前年より4名増加したが、定員充足率は70%程度と大幅に不足しているため、定員充足率80%以上を目指す。 ② 米屋株式会社との新企画である、スタートアップセミナーでの企業見学を実施する。また、インターンシップも継続して参加者を募集する。
	改善に向けての具体的な計画 (Plan)
社会貢献	① ばらつきのあるInstagramの投稿を週1回程度安定して行う。学科独自の取り組みを重視した新しい年間スケジュールを継続的に実施する。 ② 新入生オリエンテーションまでにスタートアップセミナーのタイムスケジュールを確定し、学科で共有する。

項目	2025年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入
社会貢献	1. 取組状況 (Do)
	① 公開講座は「秋の和菓子作り体験、栗時雨・季節の上生菓子」を開催した。
	② 包括連携協定先である米屋株式会社で、スタートアップセミナーでの企業見学の計画が進み、次年度4月3日に実施予定である。
	2. 点検・評価 (Check)
	① 定員24名のところ24名の参加があり、事後アンケートでは満足度は高く、概ね良好であった。
	② コロナで中断したままになっていた、包括連携協定先である米屋株式会社との連携活動を再開できた。
	3. 課題と次年度の改善目標 (Action)
	① 次年度担当する教員を早期に決めて、実施に向けて内容をまとめる。次年度は製パンの予定である。
	② 米屋株式会社との新企画である、スタートアップセミナーでの企業見学を実施する。また、インターンシップも継続して参加者を募集する。
	4. 改善に向けての具体的な計画 (Plan)
	① 周知に関して、関連記事の締め切りが早期のため新年度早々には具体的な実施案の作成をする。
	② 新入生オリエンテーションまでにスタートアップセミナーのタイムスケジュールを確定し、学科で共有する。

主要な国家資格・各種資格・検定結果(専門科目アセスメント・ポリシー)		
資格・検定等名	結果(受験者数・合格者数・合格率等)	評価
製菓衛生師	21名受験・16名合格・合格率76.2%	目標が合格率90%以上であったが、目標の達成には至らなかった。
商業ラッピング検定3級	31名受験・30名合格・合格率96.7%	目標が受験者の50%以上合格であり、目標は達成した。

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価			評価シート1		学科名		ビジネス社会学科				
評価対象年度					2025年度(令和7年度)						
入学定員			75名		設置基準上の 必要教員数	専任教員数	7名				
収容定員			150名			教授内数	3名				
学 生 数 (5/1現在) ※含留学生	1年	76名		専任教員数 (5/1現在)				特任内数	博士内数		
	2年	74名			教 授	4名	0名	0名			
	3年	一名			准教授	1名	0名	0名			
	4年	一名			専任講師	3名	0名	2名			
	計		150名		助 教	1名	0名	0名			
			計		9名	0名	2名				
入学定員充足率			101%		他学科等所属専任教員数(5/1現在)		1名				
収容定員充足率			100%		非常勤講師数(5/1現在)			15名			
休学者数(年度末集計)			7名		授 業 科 目 数	春学期	25コマ				
退学・除籍者数(年度末集計)			2名			秋学期	27コマ				
卒業生数			66名			通年/その他	0コマ				
標準修業年限内卒業率(2024年度入学)			87%		開 講 総 コ マ 数	春学期	39.5コマ		内非常勤 担当	11コマ	
進 路 状 況 (年度末集計)	就 職	59名		秋学期		38コマ		11.1コマ			
	進 学	5名		通年/その他		0コマ		0コマ			
	その他	2名									
計		66名		科学研究費等補助金 ※当該年度配分額			1件	1,040千円			
就職率(就職者数/卒業生-進学者)			97%		特別研究費(除教育研究環境整備助成) ※当該年度配分額			2件	700千円		
社会貢献関連項目		件数		具 体 例							
産学連携(企業・団体)		3件		①公益社団法人日本ブライダル文化振興協会人材育成委員(コンテスト部会、ブライダル学校部会) ②公益社団法人日本ブライダル文化振興協会テキスト改訂委員 ③一般社団法人日本能率協会主催「ネクストリーダーズ」地域ファシリテーター							
地域連携(自治体・団体)		5件		①新宿区「大学との連携による商店街支援事業」西落合旭通り商店会活性化」事業 ②クリアソン新宿とのインターンシップ等での連携 ③NPO法人ブランディングポートとのインターンシップ等での連携 ④新宿区 協働支援会議委員・座長 ⑤短期大学部「公開講座:はじめてのヨガ」(参加者14名)							
所属学会、団体、企業等 ※役員等名も記載		10件		①秘書サービス接遇教育学会 理事 ②日本インターンシップ学会 学会表彰委員会委員長 ③日本インターンシップ学会 東日本支部副支部長 ④公益財団法人実務技能検定協会 理事 ⑤日本ビジネス実務学会 常任理事 ⑥日本ビジネス実務学会 理事 ⑦日本ビジネス実務学会 評議員 ⑧日本ビジネス実務学会 研究推進委員会委員長 ⑨日本ビジネス実務学会 関東・東北ブロック研究会運営委員(2名) ⑩公益財団法人実務技能検定協会 監修(ビジネス系検定の検定問題の校閲)							
その他社会貢献事業 (高大連携など)		1件		①公益社団法人北海道観光機構 北海道観光教材実用化検討委員							

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価	シート2 (学科長記入)	評価対象年度	2025年度(令和7年度)
カテゴリー	教育課程		
学部・学科	ビジネス社会学科		
記入者氏名(役職)	和田 早代(学科長)		

項目	2024年度 自己点検評価
教育(学生指導含む)	課題と2025年度の改善目標(Action) 2024年度もモデル時間割の作成と履修指導、ベーシックセミナーでの履修登録の確認を行うことで、きめ細かい履修指導を行い、学生便覧を使ってカリキュラムツリーについての説明をベーシックセミナーを通して行うことができたが、学生便覧に掲載されていないカリキュラムマップや科目ナンバリングまでの説明を行うことができなかった。2025年度は第1回と第2回のベーシックセミナーを通して、カリキュラムマップや科目ナンバリングの説明も行っていきたい。 2024年度も学科会議後のFD委員会で、学科の学生動向を学科の教員全員で共有することで退学者減少を目指し、春学期については、ベーシックセミナー後に1年生の担任が毎週学生状況を報告する会議を行うなど、学生状況の把握に努めることが退学率の低減につながることができた。2025年度も昨年度に引き続き新入生が定員を超える人数が在学する。新入生は学力の格差が大きくなることがわかっているため、今まで以上に学生状況の把握が必要となることが考えられる。学習面でのフォロー体制に加えて、引き続きメンタル面や経済面で問題を抱える学生の把握と指導のため、教員間だけでなく、学生課との連携を深めていく。 - 学習面やメンタル面、経済的な問題を抱えている学生をフォローしていくためには、いままですべて以上に教員間や学生課との連携や保護者とのコミュニケーションが必要となってくる。クラス担任一人が学生と向き合うのではなく、学科全体で学生指導にあたっていく。 - 今後も増えることが予想される出席不良な学生やメンタル面、経済的な問題を抱えている学生をフォローしていくためにも、引き続き保護者への連絡などを密に取っていく。 - 学習意欲の低い学生に対して、どのようにアプローチをしていくかが課題である。毎月の学科会議後のFD委員会や毎週行われる担任会議などを通して、学生状況の把握に努める。また教員間での授業参観なども生かしつつ、学生が学習意欲を高められる授業スタイルを研究していく。 - ビジネス社会学科は例年入学式後と保護者会で保護者と直接コミュニケーションをとる機会をとっている。今後も少しでも保護者の方々と直接会話がとれる保護者会への参加を増やしていく努力をしていく。そのためには保護者会については対面だけでなく、リモートも併用して、参加者を増やしていく努力を引き続き行っていく。 - メジプロについて期日より遅れてしまう学生があり、そのような学生に対して、どのように指導をしていくかが今後の課題となっている。引き続き毎月の学科会議後の学科FD委員会や毎週の担任会議等を通して、各クラスの進捗状況を把握しつつ、これらの学生についての学生指導の方法を検討していく。 改善に向けての具体的な計画(Plan) - 例年通り、学生個々に合わせた履修指導を行っていく。2025年度は学則が大きく変わるため、学生それぞれの希望に合わせた時間割の作成と履修指導、ベーシックセミナーでの履修登録の確認を行うことで、きめ細かい履修指導を行っていく。また、学生便覧を使ってカリキュラムツリーの説明だけでなく、例年の課題となっているカリキュラムマップや科目ナンバリングの説明についてもベーシックセミナーを通して行っていく。 - 学科会議後のFD委員会で、学科の学生動向を学科の教員全員で共有し退学者減少を目指す。また引き続き、メンタル面と経済面に問題を抱えている学生についての支援・指導を強化するため、春学期については、ベーシックセミナー後に1年生の担任が毎週学生状況を報告する会議を行うなど、学生状況の把握に努めることが退学率の低減につなげていく。メンタル面は学生相談室と経済面は学生課との連携も取りながら学生の状況を把握するように努めていく。 - 引き続き、1、2年ともに各学期ごとに目標設定シートと振り返りシートの作成し学生が自己の振り返りをシートに記入するだけでなく、1年生はクラス担任、2年生はゼミ担任が目標設定と振り返りのシートを個人面談等の学生指導に生かしていく。試験的に導入している学科版エンrollmentマネジメントのシートを、本格的な導入に向けて検討していく。 - 毎学期ごとの保護者への成績表配布と学科新聞の送付など、保護者への情報提供だけでなく、保護者会後の個人面談等や出席不良な学生の保護者への連絡など双方向でのコミュニケーションを取ることで保護者との連携を強めていく。 - 引き続き、秘書系授業や接遇マナー系授業などの実習や演習の科目を中心にアクティブラーニングを取り入れた授業を行っていく。また、今年度から地域連携科目も導入されるので、これらの授業も含めてアクティブラーニングなど学生が主体となって考えていく授業を増やすことで、学生が興味をもって授業に参加できる体制をこれからも作っていききたい。 - ビジネス社会学科は地方や遠方の保護者も多いため、保護者会を対面型の説明会と同時並行でリモートで説明会を行い、少しでも参加者を増やす努力を行っていく。今年度も対面とリモートの併用での保護者会を検討していく。 - 引き続きすべての学生が期日までにベーシックコースとステップアップコースを終了するように指導していく。そのために、引き続き毎月の学科会議後の学科FD委員会で各クラスの進捗状況を把握しつつ、これらの学生についての学生指導の方法を検討していく。

項目	2025年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入
1. 取組状況(Do)	- 学生個々に合わせた履修指導を行った。2024年度までは4つのフィールドの縛りがあるため、オリエンテーションでの履修指導やベーシックセミナーで履修登録の確認を行うことで、きめ細かい履修指導を行った。また、学生便覧を使ってカリキュラムツリーだけでなく、カリキュラムマップや科目ナンバリングの説明も行う予定であったが、これらについてはできなかった。 - 学科会議後のFD委員会で、学科の学生動向を学科の教員全員で共有することができた。また、メンタル面と経済面に問題を抱えている学生についての支援・指導を強化するため、春学期については、ベーシックセミナー後に1年生の担任が毎週学生状況を報告する会議を行うなど、学生状況の把握に努めた。メンタル面は学生相談室と経済面は学生課との連携も取りながら学生の状況を把握するようにすることができた。 1、2年ともに各学期ごとに目標設定シートと振り返りシートの作成し学生が自己の振り返りをシートに記入し、1年生はクラス担任、2年生はゼミ担任が目標設定と振り返りのシートを個人面談等の学生指導を行った。 - 毎学期ごとの保護者への成績表配布と学科新聞の送付など、保護者への情報提供だけでなく、保護者会後の個人面談等や出席不良な学生の保護者への連絡など双方向でのコミュニケーションを取ることで保護者との連携を強めることができた。 - 秘書系授業や接遇マナー系授業などの実習や演習の科目を中心にアクティブラーニングを取り入れた授業を行っていくことができたことはよかった。またアクティブラーニングなど学生が主体となって考えていく授業を増やすことで、学生が興味をもって授業に参加できる体制を作ることができた。 - 地方や遠方の保護者も多いため、昨年度に引き続き、保護者会を対面型の説明会と同時並行でリモートで説明会を行った。 - すべての学生が期日までにベーシックコースとステップアップコースを終了するように指導を行ったが、数名達成できない学生がいた。

2. 点検・評価 (Check)

- ① 学生個々に合わせた履修指導を行っていくことができた。2024年度までは大幅な学則の変更がないため、いくつかの新学期の改正点に合わせて履修指導を行い、またベーシックセミナーで履修登録の確認を行うことで、きめ細かい履修指導を行うことができた。学生便覧を使ってカリキュラムツリーだけでなく、カリキュラムマップや科目ナンバリングの説明についてはベーシックセミナーを通して行うことができなかったことが次年度の課題である。
- ② 学科会議後のFD委員会で、学科の学生動向を学科の教員全員で共有し退学者減少を目指すことができた。例年に引き続き、メンタル面と経済面に問題を抱えている学生についての支援・指導を強化するため、1年生の担任が毎週学生状況を報告する会議を行うなど、学生状況の把握に努めることが退学率の低減につなげていくことができた。メンタル面は学生相談室と経済面は学生課との連携も取りながら学生の状況を把握することができた。
- ③ 例年に引き続き、1、2年ともに各学期ごとに目標設定シートと振り返りシートの作成し学生が自己の振り返りをシートに記させることができた。1年生はクラス担任、2年生はゼミ担任が目標設定と振り返りのシートを個人面談等の学生指導に生かしていくことができた。
- ④ 毎学期ごとの保護者への成績表配布と学科新聞の送付など、保護者への情報提供だけでなく、保護者会後の個人面談等や出席不良な学生の保護者への連絡、三者面談など、なるべく双方向でのコミュニケーションを取ることで保護者との連携を強めていくことができた。
- ⑤ 秘書系授業や接遇マナー系授業などの実習・演習科目を中心に、アクティブラーニングを取り入れた授業を実施した結果、資格取得への意欲向上につながり、合格者数はここ5年間で最多となる164名が資格取得奨励金を授与された。また、地域連携演習においても、学生が年間を通して主体的に課題を考え、実践する学びを展開することができた。
- ⑥ ビジネス社会学科は地方や遠方の保護者も多いが、保護者会を対面型の説明会と同時並行でリモートで説明会を行うことで、参加者を増やすことができた。
- ⑦ すべての学生が期日までにベーシックコースおよびステップアップコースを終了できるよう継続的に指導を行った。その結果、期日に遅れた学生が数名いたものの、休学予定者を除く全員がメジプロを終了することができた。

3. 課題と次年度の改善目標 (Action)

- ① 履修指導・学習支援の充実
 - ・オリエンテーション時の履修指導やカリキュラム理解の充実を図る。
 - ・履修計画から振り返りまでを含めた学生評価シートの在り方を検討し、初年次教育の充実につなげる。
- ② 学生状況の把握と退学防止（前年度の②と③を統合）
 - ・FD委員会や担任会議を通して、学生状況の共有と早期対応を継続する。
 - ・学習面、メンタル面、経済面に課題を抱える学生への支援体制を、学生課とも連携しながらより一層強化する。
- ③ 学生指導の改善と学習意欲の向上
 - ・メジプロ提出状況の把握と継続的な指導を行う。
 - ・資格取得支援と学生主体の授業改善を推進する。
- ④ 保護者との連携強化（前年度の③と⑥を統合）
 - ・保護者会や個別連絡を通して、保護者との連携強化を図る。
 - ・対面とリモートを併用し、保護者会参加者の増加を目指す。
- ⑤ キャリア教育と就職指導の強化（新規）
 - ・2022年度から継続している就職・進学率100%を維持する。
 - ・編入学希望者への支援体制の強化

4. 改善に向けての具体的な計画 (Plan)

- ① 履修指導・学習支援の充実
 - ・入学オリエンテーション時の履修登録確認を行なうとともに、カリキュラムマップ等について説明し、初年次教育の強化を図る。
 - ・目標設定シートおよび振り返りシートを活用し、担任が学生の自己評価を把握することで、学習面および生活面における支援の充実を図る。
- ② 学生状況の把握と退学防止
 - ・学科全体で学生の欠席や遅刻、学習や生活状況を把握し、脱落率の低減に努める。
 - ・学生相談室や学生課と連携し、メンタル面・経済面の支援体制を強化する。
- ③ 学生指導と学習意欲の向上
 - ・入学前教育として位置付けている「メジプロベーシック」の100%修了を目指すとともに、入学後の「メジプロステップアップ」についても全員修了に向けた指導を行い、基礎学力の向上を図る。
 - ・オフィスワーク系資格の取得を積極的に推奨し、合格者数の増加を目指すとともに、アクティブラーニング等を取り入れた、学生主体の授業の充実を図る。
- ④ 保護者との連携強化
 - ・保護者会や個人面談、成績表配布等を通して、保護者との双方向のコミュニケーションの強化を図る。
 - ・対面とリモートを併用した保護者会を継続し、参加者数の増加を目指す。
- ⑤ キャリア教育と就職指導の強化
 - ・学生一人ひとりの進路選択や就職活動を、きめ細かく支援する。
 - ・卒業生や企業関係者による講話等も実施し、就業に対するモチベーションを持続・向上できるよう、内容の充実を図る。

項目	2024年度 自己点検評価
研究	課題と2025年度の改善目標(Action)
	① 2024年度はビジネス社会学科の教員全員が論文投稿をすることができなかったため、2025年度は教員全員が、紀要または学会誌の投稿を行っていく。 ② 毎月担当する教員が研究報告を問題なく行っているため、2025年度も引き続き行っていく。 ③ 年2回の授業参観を学科教員全員が問題なく行っているため、2025年度も引き続き行っていく。
	改善に向けての具体的な計画(Plan)
	① 2025年度は教員全員が、紀要または学会誌の投稿を行っていく。 ② 2025年度も例年に引き続き教授会後の研究方向において、担当する教員の研究報告を行っていく。 ③ 2025年度も年2回の授業参観を学科教員全員が行っていく。

項目	2025年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入
研究	1. 取組状況(Do)
	① 2025年度は学科の何名かの教員が紀要または学会誌の投稿を行った。 ② 教授会後の研究報告は2025年度も担当教員が行った。 ③ 年2回の授業参観は2025年度も全員が行った。
	2. 点検・評価(Check)
	① 2025年度は学科の教員が紀要または学会誌の投稿を行ったが全員が行うことはできなかったので来年度の課題としたい。 ② 教授会後の研究報告は2025年度も担当教員が行うことができた。 ③ 年2回の授業参観は2025年度もビジネス社会学科の教員全員が行うことができた。
	3. 課題と次年度の改善目標(Action)
	① 教員全員が計画的に研究業績を積み重ね、論文投稿や学会発表等の研究活動に取り組む。 ② 毎月、担当教員による研究報告を短大教員向けに実施し、学科間の共同研究や自己の研究活動につなげる。 ③ 教員全員が、年2回の授業参観を実施し、授業改善および自己研鑽に努める。
	4. 改善に向けての具体的な計画(Plan)
	① 教員研究費や研究日を活用し、論文投稿や学会発表に向けた研究活動を計画的に進める。 ② 教員間の研究内容の共有を図るとともに、研究テーマの共有を通して、学科横断的な共同研究の可能性を検討する。 ③ 年2回の授業参観を実施し、授業方法や学生対応について相互に学び合う機会を設けるとともに、授業改善や自己研鑽につなげる。

項目	2024年度 自己点検評価
管理運営	課題と2025年度の改善目標(Action)
	① 問題なく学生情報の共有が行われているため、2025年度も引き続きこの体制を整えていきたい。 ② 次回の認証評価に向けての準備は進んでいないため、前回の認証評価の3つの意見を確認し、対策をおこなっていく。 ③ google classroomの活用は定着しているが、Schoo Swingが使い切れていない状態であるため、より積極的に活用していく体制を整える。
	改善に向けての具体的な計画(Plan)
	① 2025年度も学科会議後のFD委員会やベシクセミナー担当者会議などを活用して、学科内で学生情報(出欠状況や就活状況など)を全教員が随時情報を共有することができる体制を整えていく。 ② 次回の認証評価に向けて、前回の3つの意見を精査するとともに、学科会議後のFD委員会等で前回の認証評価での改善すべき項目について検討していく。 ③ 授業で使用するSchoo Swingや、学科広報で使用するSNSなどのICTツールの活用を推進していくため、学科内で積極的に活用している教員が中心となって勉強会を行っていく。

項目	2025年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入
管理運営	1. 取組状況(Do)
	① 学科会議後のFD委員会やベシクセミナー担当者会議などを活用して、学科内で学生情報(出欠状況や就活状況など)を全教員が随時情報を共有することができた。 ② 前回の認証評価において示された3つの意見については、学科会議後のFD委員会等において、前回の認証評価で示された改善を要する事項を継続的に検討する機会が十分に確保できなかった。 ③ Schoo Swing等のICTツールの活用を推進するため、短大部全体の「研究交流会」を実施した。
	2. 点検・評価(Check)
	① 学科会議後のFD委員会やベシクセミナー担当者会議などを活用して、学科内で学生情報(出欠状況や就活状況など)を全教員が随時情報を共有することができたことはよかった。 ② 学科会議後のFD委員会等で前回の認証評価での改善すべき項目について当該事項を学科内で共有し、改善に向けた検討を継続的に行う体制の整備が課題である。 ③ ICTツールの活用推進のための勉強会を行なったので、今後は、SNS等の活用による学科広報の充実を改善目標として位置づけ、活用事例の共有や教員間での情報交換を通じて、学科全体で広報活動を推進していく体制を整えることが課題である。
	3. 課題と次年度の改善目標(Action)
	① 問題なく学生情報の共有が行われているため、次年度も引き続きこの体制を整えていきたい。 ② 2028年度の認証評価受審に向けた準備を開始し、前回の認証評価における3つの意見を確認のうえ、改善に向けた対応を進める。 ③ SNS等のICTツールを活用し、高校生に向けた学科広報を推進する。
	4. 改善に向けての具体的な計画(Plan)
	① FD委員会やベシクセミナー担当者会議などを活用し、学科内で学生情報(出欠状況や就活状況など)を全教員が随時情報を共有することができる体制を整える。 ② 次回の認証評価に向けて、前回の3つの意見を精査するとともに、学科会議後のFD委員会等で前回の認証評価での改善すべき項目について検討する。 ③ SNS等のICTツールを活用した学科広報を推進し、高校生をはじめとした受験生に向けて、本学科の魅力や学びの特色を積極的に発信する。

項目	2024年度 自己点検評価
社会貢献	課題と2025年度の改善目標 (Action)
	① SNSの発信や学科新聞の送付、入試広報部と棲み分けをしつつ重点校への教員による高校訪問など積極的に行っていく。
	② 入学対象者だけでなく地域住民も含めた集客力のある地域向けの公開講座を実施する。
	③ 引き続き学科の教員が学会運営や地域連携などの学外の活動に積極的に携わっていく。
社会貢献	改善に向けての具体的な計画 (Plan)
	① SNSの発信や学科新聞の送付、入試広報部との棲み分けをしつつ重点校への教員による高校訪問など、高校側にビジネス社会学科の活動を知る機会を積極的にアピールしていく。
	② 人生100年時代をテーマに地域向けの公開講座を対面で実施することで、入学対象者だけでなく、地域住民も含めた幅広い層にビジネス社会学科の存在をアピールしていく。
	③ 学科の知名度を高めていくためにも、引き続き学科の教員が学会運営や地域連携などの学外の活動に積極的に携わっていく。

項目	2025年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入
社会貢献	1. 取組状況 (Do)
	① 引き続き学科新聞の送付や重点校への教員による高校訪問など、高校側にビジネス社会学科の活動を知る機会を積極的にアピールした。
	② 人生100年時代をテーマに地域向けの公開講座を対面で実施した。この活動によって、入学対象者だけでなく、地域住民を含めた幅広い層にビジネス社会学科の存在をアピールした。
	③ 学科の知名度を高めていくために、学科の教員が学会運営や地域連携などの学外の活動に積極的に携わった。
	2. 点検・評価 (Check)
	① 引き続き学科新聞の送付や重点校への教員による高校訪問など、高校側にビジネス社会学科の活動を知る機会を積極的にアピールすることができた。
	② 人生100年時代をテーマに地域向けの公開講座を対面で実施することで、入学対象者だけでなく、地域住民を含めた幅広い層にビジネス社会学科の存在をアピールすることができた。
	③ 学科の知名度を高めていくために、学科の教員が学会運営や地域連携などの学外の活動に積極的に携わることができた。
	3. 課題と次年度の改善目標 (Action)
	① 「地域連携特待生奨学金規程」の円滑な運用と定着を図る。
	② 新宿区および区内事業者等との連携関係の強化を図る。
	③ 地域住民の参加も視野に入れた、集客力のある地域向けの公開講座を実施する。
社会貢献	4. 改善に向けての具体的な計画 (Plan)
	① 高校生に向けた「地域連携特待生」の周知と、地域連携特待生の主体的な地域活動参加の促進を図る。
	② 新宿区および区内事業者等との情報交換や連携機会を継続的に設け、地域連携授業やインターンシップ等を通して、地域との協力体制強化を図る。
	③ 地域住民のニーズを踏まえた公開講座の企画・実施を行い、広報活動を工夫し、地域住民を含めた参加者増加を目指す。

主要な国家資格・各種資格・検定結果(専門科目アセスメント・ポリシー)		
資格・検定等名	結果(受験者数・合格者数・合格率等)	評価
秘書技能検定	準1級合格率100%(受験11名・合格11名) 2級合格率37.3%(受験51名・合格19名)	2級では目標達成には至らなかったが、準1級では受験者11名全員が合格でき、上位級において顕著な成果が見られた。秘書かサービスのどちらかの検定に受験者の50%以上が合格しているという目標は達成できた。
サービス接遇検定	1級合格率56.3%(受験16名・合格9名) 準1級合格率83.8%(受験68名・合格57名) 2級合格率93.0%(受験71名・合格66名)	目標が受験生のうち50%以上合格であり、全ての級において目標は達成できた

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価			評価シート1		学科名		歯科衛生学科				
評価対象年度					2025年度(令和7年度)						
入学定員			60名		設置基準上の 必要教員数	専任教員数	10名				
収容定員			180名			教授内数	3名				
学 生 数 (5/1現在) ※含留学生	1年	60名	専任教員数 (5/1現在)				特任内数	博士内数			
	2年	46名					教 授	3名	0名	3名	
	3年	55名					准教授	2名	0名	1名	
	4年	一名					専任講師	1名	0名	0名	
	計	161名					助 教	3名	0名	0名	
							計	9名	0名	4名	
助 手							1名	0名	0名		
入学定員充足率			100%		他学科等所属専任教員数(5/1現在)		12名				
収容定員充足率			89%		非常勤講師数(5/1現在)		19名				
休学者数(年度末集計)			8名		授 業 科 目 数		春学期	35コマ			
退学・除籍者数(年度末集計)			2名				秋学期	25コマ			
卒業生数			52名				通年/その他	1コマ			
標準修業年限内卒業率(2022年度入学)			87%								
進路状況 (年度末集計)	就 職	49名	開 講 総 コ マ 数		春学期	42.5コマ		内非常勤 担当	11.8コマ		
	進 学	1名			秋学期	29.5コマ			7.5コマ		
	その他	2名			通年/その他	12コマ			0コマ		
	計	52名	科学研究費等補助金 ※当該年度配分額		0件		0千円				
就職率(就職者数/卒業生-進学者)			96%		特別研究費(除教育研究環境整備助成) ※当該年度配分額		0件		0千円		
社会貢献関連項目		件数	具 体 例								
産学連携(企業・団体)		0件									
地域連携(自治体・団体)		1件	・短期大学部「公開講座」で「歯科診療でのエックス線検査」について企画								
所属学会、団体、企業等 ※役員等名も記載		5件	・日本歯科衛生教育学会 常任理事、編集委員長 ・一般社団法人 日本口腔感染症学会 副理事長、院内感染予防対策認定制度委員会委員 ・全国大学歯科衛生士教育協議会 理事 ・日本口蓋裂学会診療ガイドライン作成委員会小児歯科WG委員 ・東京歯科大学学会 評議員								
その他社会貢献事業 (高大連携など)		2件	・学園祭において来場者(特に小児)向けの実習施設、設備を利用した体験イベント ・太陽歯科衛生士専門学校における歯科医師・歯科衛生士対象の超音波実践セミナー(講師)								

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価	シート2 (学科長記入)	評価対象年度	2025年度(令和7年度)
カテゴリー	教育課程		
学部・学科	歯科衛生学科		
記入者氏名(役職)	佐藤 昌史(学科長)		

項目	2024年度 自己点検評価
教育(学生指導含む)	課題と2025年度の改善目標(Action) ① 低学年からの個人面談を継続し、特に出席不良者に対しては保護者への協力も得ながら指導を強化していく。 ② 再履修による授業スケジュールや臨地・臨床実習への影響が少なくなるようにしていく。 ③ 1月の第3回全国模試の平均得点率を60%以上となるよう国試対策を計画し、国家試験の新卒合格率90%、既卒合格率60%を目指す。 ④ 引き続きベーシックコース全科目の全員終了、ステップアップコース全科目の90%以上修了を目指す。 ⑤ 大学や学科が提供する就職イベントなどを有効に利用していない学生や内定後の報告がない学生がいる。就職意欲と国試準備は関連するのでゼミなどでも指導強化に努める。
	改善に向けての具体的な計画(Plan) ① 入学選抜における学生の資質、意欲の見極めを再検討する。在学生においては低学年のうちに学習意欲低下が著しい学生への進路変更も視野に入れた指導を強化する。 ② 2学年次春学期修了時の登院判定の厳格化を図るとともに、学生への周知を徹底する。 ③ 3年次春学期から課題問題を毎日配信して、学習習慣の定着と基本事項の知識習得を図る。既卒者対策として受験意思の確認、聴講生制度の利用を強く促していく。 ④ 基礎教育科目の単位認定条件として組み込むことでメジロベーシックコース全科目の100%修了、ステップアップコース全科目修了者90%以上の修了を目指す。 ⑤ 春学期からの就活イベントへの参加を促し意識を高めるとともに、夏季休暇を利用した就職活動を指導し、引き続き年内内定率50%を目指す。

項目	2025年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入
教育(学生指導含む)	1. 取組状況(Do) ① 1年次、2年の成績不振者への保護者を交えた三者面談を実施した。 ② 今年度は登院判定基準に沿って、2年次春学期までの成績により、学外臨床実習への登院判定を行った。 ③ 3年次学生においては学習習慣の形成のため配信課題を春学期から続けた。秋学期から1月の全国模試③の得点率60%を目指し各科目の補講を開始した。 ④ メジロ課題のベーシックコースは春学期のベーシックセミナー、ステップアップコースは秋学期の日本語表現の単位認定条件の一つとして全科目修了を促した。 ⑤ 3年時オリエンテーションや各ゼミにおいて夏休みを利用した医院見学、就職イベントへの参加を促した。
	2. 点検・評価(Check) ① 意欲低下による出席不足や学業不振により進路変更した学生は第2学年の2名であった。 ② 今年度は登院判定の条件を満たさない学生が7名おり、不合格とし、三者面談による今後の履修指導を行った。 ③ 課題配信を活用して学習する学生もいたが、多くの学生は臨床実習期間中には取り組みが消極的であり、効果が十分でなかった。1月の全国模試の平均得点率は50.5%であり、目標を下回り学生の本格的な取り組みの遅れが覗えた。国家試験結果は新卒、既卒ともに当面の目標に僅かに届かなかったがほぼ達成できた。 ④ ベーシックコース終了者は100%で、ステップアップコース終了者は95%であり、目標を達成したが、一部の者は取り組みが遅い者がいた。 ⑤ 年内に内定の報告があったものは概ね25%程度であった。
	3. 課題と次年度の改善目標(Action) ① 毎日の通学を前提とした生活習慣や学習習慣が形成されていない学生があり、1学年次からの教員間の情報共有を行い修学指導に努める。 ② 登院判定不合格者に対する再履修計画を含めた相談・指導を引き続き行っていく。登院判定不合格者を今年度より減少させる。 ③ 引続き、春学期の臨床実習期間中からの配信課題等を利用した基礎力向上を図る。特に1月の全国模試③では学年の平均得点率60%を引き続き目標とし、国家試験合格率の全国平均を次年度の目標とする。 ④ 基礎教育科目担当者や担任による積極的な取り組みを促し、引続きベーシックコース、ステップアップコース共に100%を目指す。 ⑤ 毎年、成績不振者に就職活動に消極的な学生がいるため、ゼミ等での働きかけを強化して年内での内定率を50%前後を目指す。
	4. 改善に向けての具体的な計画(Plan) ① 1学年次から学生の状況についての情報共有を学科会議を通じて行い、早期からの修学指導をさらに強化する。 ② 1学年次から登院判定についてのアナウンスを行い、ある程度の緊張感と学習習慣形成をはかる。 ③ ゼミを中心に重要項目の解説や模擬試験結果等による習熟度別の少人数教育の時間を増やす。特に成績不振学生には各時期の模擬試験に対する得点目標を学生に設定させ取り組ませる。 ④ メジロ終了を引続き基礎教育科目での課題に組み込むとともに、取り組みの遅い学生への指導を行う。 ⑤ 例年、国試結果が不安な成績不振者に就職活動が遅れたり、消極的な学生が多い傾向が見られるため、ゼミ等で個別に修学指導と合わせて強化していく。

項目	2024年度 自己点検評価
研究	課題と2025年度の改善目標(Action) ① 短大紀要への投稿を前年度より増やすよう努める。 ② 個人へ学科業務の負担が偏らないように努め、学会参加などの機会を促進する。
	改善に向けての具体的な計画(Plan) ① 他大学や他施設との共同研究への参入の可能性を探り、研究テーマの幅を広げる。 ② 社会人大学院に在籍する教員への支援と業務分散を図る。

項目	2025年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入
研究	1. 取組状況 (Do)
	① 社会人大学院に所属する教員が所属大学の学会において研究発表を行った。また他大学との共同研究者として口蓋裂学会にて共同発表をおこなった。 ② 今年度は1名の教員が新潟大学社会人大学院博士課程に進学した。
	2. 点検・評価 (Check)
	① 学会発表は2題あったが、短大紀要への学科教員の投稿は今年度はなかった。 ② 社会人大学院修士課程への進学希望のあった新たに2名の教員が受験をし新潟大学大学院への合格を果たした。
	3. 課題と次年度の改善目標 (Action)
研究	① 若手教員の紀要投稿を促すためにも現況では研究テーマが限られるため、学外施設との共同研究の機会を引き続き見いでいく。 ② 次年度は3名の社会人大学院生が在籍することになり、さらに校務の分担を過度な負担にならないよう配慮する。
	4. 改善に向けての具体的な計画 (Plan)
	① 他大学と共同研究として行ったアンケート調査の結果についての検討をすすめる。本学科が主管する学会大会への発表も検討中。 ② 短大FD研修においても、若手教員の研究促進につなげる内容を行っていく。大学院進学の教員を中心に研究への意欲を高めていく。

項目	2024年度 自己点検評価
管理運営	課題と2025年度の改善目標 (Action)
	① 教員不足で学科広報活動、行事などに不十分な面が生じたため、次年度は教員補充に伴い、学科新聞作成など広報活動にも力を注ぐ。
	② 2026年度カリキュラム改訂、社会人受け入れ態勢など検討を進めていく。
	改善に向けての具体的な計画 (Plan)
	① 新たな教員を迎え、順次専任教員講習会などへの参加を促進し、特に若手教員の育成を図る。
	② カリキュラム改訂等、議案が多くなることが想定され、定例学科会議以外に必要なに応じて臨時会議を設けて対処する。
	③ 将来の学科構想を視野に入れた欠員教員の補充を図っていく。

項目	2025年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入
管理運営	1. 取組状況 (Do)
	① 教員の補充により学外実習に関わる業務や学科イベント業務の負担軽減を図った。また新任教員の経歴や特性を生かして、低学力者の国家試験対策として少人数指導や個別指導を計画した。 ② 2026年度入学生に向けたカリキュラム改訂に着手し、3年次の総合講座の科目を2教科増やし、基礎と臨床の関連した知識の統合を図った。また、低学年からの医療人としての態度、意識づけを強化する目的で、1年次の後半に早期体験実習を組み入れた。
	2. 点検・評価 (Check)
	① 新規に教育歴の長い2名の専任教員の確保ができた。一方で反省点として教員間の情報共有の問題から臨床実習施設登録の届出に関する重大ミスが生じてしまった。 ② カリキュラムの不足部分を検討し、2026年度に向けたカリキュラム改訂を行うことができた。
	3. 課題と次年度の改善目標 (Action)
管理運営	① 今後も学外施設の増加が予想されるため、教員間の情報共有や事務局の協力による相談・確認体制を強化していく。 ② 新カリキュラム施行に伴う1学年の実習計画の検討、次年度、秋に予定する日本歯科衛生教育学会主管(中野恵美子大会長)への準備を進める。
	4. 改善に向けての具体的な計画 (Plan)
	① 学科会議、実習委員会での情報共有、決定事項の確認とともに事務局(企画室)の協力のもと、毎月の定例会議を継続し重大ミスの防止に努める。 ② 新カリキュラムの1年次早期体験実習(新・臨地臨床実習Ⅰ)に向けた実習計画および実習施設の依頼・確保をすすめる。 ③ 社会人大学院教員の支援とともに定年、任期期限等による教員の補充に関して、将来を見据えた人事計画を早期に検討する。

項目	2024年度 自己点検評価
社会貢献	課題と2025年度の改善目標 (Action)
	① 公開講座のテーマの幅を少し広め、集客人数の増加を図る。
	② 積極的な学生参加を促し、学園祭出展を検討する。
	改善に向けての具体的な計画 (Plan)
	① 公開講座のテーマの幅を少し広め、社会的な関心事も含めたテーマ設定を検討し、幅広い年齢層の聴講者の増加に努める。
	② 近隣歯科医師会等の口腔保健活動に関する行事への参加を検討する。

項目	2025年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入
社会貢献	1. 取組状況 (Do)
	① 公開講座の開催を計画した。学園祭においては学生の参加協力のもと実習施設を利用した体験イベントを行った。 ② 現在、学校歯科健診学生実習として、近隣歯科医師会に協力いただいている状況に留まっている。
	2. 点検・評価 (Check)
	① 開催を準備したが、聴講者の応募が少なく、参加者の当日キャンセルにより結果的に中止になった。学園祭イベントは子どもを連れた家族に好評であった。 ② 今年度は地域歯科医師会の行事への参加は実現していないが、今後要請があれば積極的に参加を検討していく。
	3. 課題と次年度の改善目標 (Action)
社会貢献	① 公開講座開催の日程や講座の内容を再検討して集客につなげていく。 ② 地域からの要請等は可能な限り受け入れを検討し、学科の地域貢献の幅を広げていけるよう努める。
	4. 改善に向けての具体的な計画 (Plan)
	① 次年度は学園祭期間中の公開講座開催を計画し、内容もできるだけ一般向けのテーマを検討して、学園祭来場者の聴講につなげる。 ② 公益法人新宿未来創造財団子ども支援課からの依頼を受諾し子ども対象のイベント開催の計画を進めている。

主要な国家資格・各種資格・検定結果(専門科目アセスメント・ポリシー)		
資格・検定等名	結果(受験者数・合格者数・合格率等)	評価
歯科衛生士	全体: 受験者74名合格者59名 (79.7%) 新卒: 受験者52名合格者46名 (88.5%) 既卒: 受験者22名合格者13名 (59.1%)	全体の合格率は全国平均より10ポイント以上下回っているが、前年度と比較すると新卒の合格率は約10ポイント上昇した。今年度の目標である新卒90%、既卒60%の目標はほぼ達成に近づいたが更なる向上を図る必要がある。

専門科目アセスメント・ポリシー

学位プログラムレベルの点検・評価
(卒業認定・学位授与等の方針に関する規程第 7 条関連)

目白大学短期大学部 各種アセスメントの達成目標 2025 年度版

(1) 成績評価による検証 (ASP2 に対応)

【全学科共通】科目の成績評価を通して学修成果の評価を行う。評価にあたっては、評価の方法、評価の観点および評価基準をシラバスに明示したうえで、厳格な成績評価を行う。

(2) 出席率による検証 (ASP1 に対応)

【全学科共通】

①評価の指標	②達成目標 (数値指標)	③実施結果	④達成度	⑤次年度の改善点等	⑥DP との 相関
・全開講科目の毎授業毎の出席率	出席率 80%以上	短大全体 春学期 85.06% 秋学期 78.03%	A	秋学期に出席率が落ちる傾向にあるので、欠席過多にならないよう注意喚起をする	3 学科とも DP に掲げている事柄を達成するためには、授業に出席することが必要不可欠である。A 評価であることから、DP の達成に向けて評価できる。

(3) 学生の主観的評価によるアセスメント (ASP3 に対応)

【全学科共通】

①評価の指標	②達成目標 (数値指標)	③実施結果	④達成度	⑤次年度の改善点等	⑥DP との 相関
・新入生アンケート、在学生アンケート、卒業生アンケート、学生による授業評価アンケートから、学生の学修意欲・学習到達度・成長感等について評価する。	アンケートの肯定的回答 80%以上	各種アンケートの結果は概ね 80%以上が肯定的回答であった。卒業生アンケートの「専門分野や学科の知識、技能が身についた」は 82.1%（前年度 78.3%）であり、教育面への評価が向上した。	A	新入生、在学生、卒業生へのアンケートは、回答率が 95%を超えた。授業評価アンケートの回答率は、春学期 74.2%、秋学期 77.7%と低いことから、回答率の向上に努める。	短期大学部が掲げる 3 つの力と専門教育を通して、資質・能力を獲得できることを目標に、各学科が定めた観点到合致した人材育成と相関する。

④達成度評価の目安 S：達成度 100% A：80%以上 B：50%以上 C：50%未満 D：実施できず

【製菓学科】

④達成度評価の目安 S：達成度 100% A：80%以上 B：50%以上 C：50%未満 D：実施できず

①評価の指標	②達成目標 (数値指標)	③実施結果	④達成度	⑤次年度の改善点等	⑥DPとの 相関
・毎学期ごとに「目標設定・評価シート」を用いて振り返りを行い、学生自身が自己評価する。	4 段階で評価し、「できた」「よくできた」と自己評価をする学生が 70%以上 ・「よくできた」 ・「できた」 ・「あまりよくできなかつた」 ・「できなかつた」	34 名中 24 名が自己評価「できた」「よくできた」(70.5%)であった。	S	4 段階評価「できた」「良くてできた」が 70%以上を確保できるよう指導する。	食についての基礎的な知識、製菓に関する専門知識を修得し、適切な判断をすることができる観点と 相関する。
・インターンシップ参加者は日報および自己採点レポート課題から振り返りを行い、成長感を評価する。	出席、日報、自己採点レポート課題の提出 100%により 「G」評価	34 名が 1 週間以上の企業研修に参加し、単位取得に至った。	S	今年度は単位取得率 100%であったが、貫徹し終了できるよう事前指導に当たる。 引き続きお引き受けいただいた企業を増やす。	食についての基礎的な知識、製菓に関する専門知識を修得し、適切な判断をすることができる観点と 相関する。

【ビジネス社会科学科】

①評価の指標	②達成目標 (数値指標)	③実施結果	④達成度	⑤次年度の改善点等	⑥DPとの 相関
・毎学期ごとに「目標設定シート」「評価シート」を用いて振り返りを行い、学生自身が自己評価する。	4 段階で評価し、「できた」「よくできた」と自己評価をする学生が 70%以上 ・「よくできた」 ・「できた」 ・「あまりよくできなかつた」 ・「できなかつた」	1 年生は、「よくできた」と自己評価をする学生が 78%で、2 年生は 85%であった。	A	資格取得や学科イベント、学内行事への積極的な参加が学生の評価に繋がった。次年度も引き続き動機づけを強化し、学生生活の満足度向上に向けて支援する。	ビジネスに関する【知識・理解】【能力】【態度・志向性】を修得できているかを確認するためにも毎学期ごとの振り返りを行っていくことは重要である。今年度は A 評価としたが、まだ満足感が低い学生もあり、DP の達成に向けてより努力を行っていく。

・インターンシップ参加者は日報から振り返りを行い、成長感を評価する。	出席と日報の提出 100% により「G」評価	19名がインターンシップに参加し、全員日報を提出した。多くの学生が複数社のインターンシップに参加し、2週間以上の参加者も4名いた。クリニック、ホテル、企業での業務見学・体験の機会を学科で提供できた。	A	学生達が今後のキャリアを考え、進路選択につながる機会となつていくことから、次年度も学生が希望する業界や職種だけでなく、幅広いインターンシップを経験することの重要性を理解させ、就業体験を行う。	「観点③【態度・志向性】社会に対する関心を持ち、自らの立場から社会の変化に対応し、責任ある行動をとることができる」を達成するために、インターンシップに参加することが重要である。A評価であることから、DPの達成に向けて評価できる。
------------------------------------	---------------------------	---	---	---	--

【歯科衛生学科】

①評価の指標	②達成目標 (数値指標)	③実施結果	④達成度	⑤次年度の改善点等	⑥DPとの 相関
・臨床・臨地実習においては、ポートフォリオ（ケース記録表・実習日報・実習記録）を通して日々自己評価を行う。	自己評価ルーブリックを用いた学生自身による評価得点 60 点以上	履修者 51 名の自己評価は全員が 60 点以上であった。	A	実習に慣れてくると記録の記載や提出が遅れる者もあり、実習期間中の振り返りなどでも指導を継続	専門分野の知識・技術を修得するために、臨床実習を通じて得た成果を記録し、振り返ることは必要である。
・実習先ごとに臨床評価表（自己評価表）で自習態度、知識・技術等について自己評価を行い、実習を通して達成度・満足度・成長度・課題等について自己分析する。	自己評価ルーブリックを用いた学生自身による評価得点 60 点以上	履修者 51 名の自己評価は全員が 60 点以上であった。	S	疑問点や不明部分を解決しようとする意識を促していく。	臨床現場での実習体験を通じ、医療人として求められる態度、倫理観ならびに多職種とのコミュニケーション能力を育成するために、自己評価を繰り返すことは重要である。

(4) 授業科目の成績評価以外の能力面アセスメント (ASP4 に対応)

【製菓学科】

④達成度評価の目安 S：達成度 100% A：80%以上 B：50%以上 C：50%未満 D：実施できず

①評価の指標	①-2 対応科目	②達成目標 (数値指標)	③実施結果	④達成度	⑤次年度の改善点等
・卒業時に「学修成果確認試験」を行い、在学中に身につけた学修成果を評価する。	製菓衛生師、実践コースに共通する講義科目（和菓子、洋菓子、製パン、食品衛生学、栄養学）	各分野 60%以上の正解	1 月 27 日対面で実施し、31 名中 29 名が合格した。2 名が再試験となったが、再試験の結果合格となった。	S	内容は昨年度より各分野 2 問、合計 10 問問題を増やし実施した。次年度も引き続き今回の問題数で実施する。周知は各学期の始め、試験範囲は年末と年明けに周知した。次年度も引き続き早い段階から周知する。
・製菓衛生師資格の合格率により、学習到達度を評価する。	公衆衛生学、食品衛生学、食品学など、製菓衛生師資格に関わる科目	千葉県製菓衛生師試験（国家試験）合格率 90%以上	21 名が受験し 16 名が合格した。(76.2%)※千葉県合格率 (42.5%)	A	出題傾向に大きな変化があった。昨年度以前と本年度の出題傾向の分析が必要である。
・商業ラッピング検定 3 級、カラーコーディネーター検定の資格取得率で学修成果を評価する。	ラッピング実習、カラーコーディネーター論および演習	どちらかの検定試験に受験者の半数以上が合格	商業ラッピング検定 3 級は 31 名中 30 名 (96.8%) が資格取得した。	S	達成目標の数字を維持できるように指導する。

【ビジネス社会学科】

④達成度評価の目安 S：達成度 100% A：80%以上 B：50%以上 C：50%未満 D：実施できず

①評価の指標	①-2 対応科目	②達成目標 (数値指標)	③実施結果	④達成度	⑤次年度の改善点等
・卒業時に「学修成果確認試験」を行い、在学中に身につけた学修成果を評価する。	4 つのフィールドのうち学生が選択しているフィールドの科目	確認試験の基準をクリアした卒業年次生が 100%	休学中・休学歴がある学生を除く卒業年次生 68 名のうち 65 名が期限内に提出し合格基準に達した。3 名のうち 1 名は期限後に提出し、審査後に合格となった。他 2 名は秋学期中に卒業単位未充足のため留年が確定し、次年度に学習成果認定試験を受験することとなった。	A	年度初めの時点で年度末に試験を行うことを周知し、卒業予定者全員が合格できるように指導を行った。結果は 1 名が締め切り後の提出となり、その後合格となった。 来年度も授業終了と合わせて試験を実施することにより、セミナー等で周知を徹底し、全員が期限内に提出できるようにする。

・秘書技能検定試験およびサードビスマン接遇検定試験の資格取得率で学修成果を評価する。	ビジネスマナー、秘書学概論、秘書実務、秘書演習Ⅰ・Ⅱ	どちらかの検定試験に受験者の50%以上が合格	秘書検定準1級11名、2級19名、サードビスマン接遇検定1級9名、準1級60名、2級63名と、非常に多くの合格者を輩出できた。卒業予定者の70%がいずれかの検定試験に合格することができている。	S	秘書技能検定試験が会場実施試験以外にCBT方式もとっているため、随時結果が出ることから、合格率を明確にすることが年々難しくなっている。次年度からは合格率ではなく、在籍者に対する合格者数で目標数値を設定したい。
--	----------------------------	------------------------	--	---	--

【歯科衛生学科】

④達成度評価の目安 S：達成度100% A：80%以上 B：50%以上 C：50%未満 D：実施できず

①評価の指標	①-2 対応科目	②達成目標 (数値指標)	③実施結果	④達成度	⑤次年度の改善点等
・「学修成果確認試験」を行い、在学中に身につけた学修成果を評価する。	国家資格に準じた出題範囲、出題数(220問)で試験を行う。	12月および1月に行う模擬試験のいずれかが60%以上の正答率を合格とし、合格者60%以上を達成目標とする	本試験合格率は42%、再試験終了時67%であった。不合格者には合格基準に到達するまで追加の再試験を4回実施した。	B	模擬試験結果により、必要に応じた学習熟度によるクラス編成を行い、特に成績不振者への個別指導を早期に開始することで学習習慣の形成を図る。
・国家試験の合格状況から学習到達度を評価する。 歯科衛生士資格の取得者数及び取得率	歯科予防処置、歯科診療補助、歯科保健指導を中心に歯科衛生士資格に関わる科目	歯科衛生士資格取得率90%以上	新卒合格率：88.5% 既卒合格率：59.1% 全体合格率：79.7%	B	今年度の国家試験結果の分析を行い、効果がみられた学力不振者への個別指導を早期から継続的に行う。 既卒不合格者への聴講生制度の活用をさらに促す。
・臨床・臨床実習の臨床場面における態度や知識・技術に関して学外指導者(歯科医師・歯科衛生士)が評価する。	臨地・臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	学外指導者評価60点以上	学外指導者評価はほぼ全員が60%以上であった。臨地臨床実習Ⅰ(2年次)では態度面で指摘を受ける学生も一部見られたが、指導により改善された。	A	学生に実習を通じての学びと座学で学習した知識の連動を意識づけさせていく。精神的な調子が続き、実習を中断する学生への支援を引き続き行う。

(5) 入学前教育の学修成果 (ASP5 に対応)

【全学科共通】

④達成度評価の目安 S：達成度 100% A：80%以上 B：50%以上 C：50%未満 D：実施できず

①評価の指標	②達成目標 (数値指標)	③実施結果	④達成度	⑤次年度の改善点等	⑥DPとの 相関
・メジブプロ取組状況	<ベーシックコース> 製菓：春学期末までに5教科終了 ビジネス：春学期末までに5教科終了 歯科：5月末時点で3教科(英・数・国)終了、春学期末までに5教科終了努力目標 <ステップアップコース> 製菓：5教科終了 ビジネス：3教科(英・数・国)終了	<ベーシックコース> 製菓：100% (35名全員終了) ビジネス：100% (休学者以外全員終了) 歯科：100%終了 <ステップアップコース> 製菓：100% (35名全員終了) ビジネス：98.7% (1名未終了) 歯科：95%終了	A	3 学科の全学生がベークスを終了することできた。ステップアップコースも全員の終了を目指す。	3 学科とも DP に掲げている事柄を達成するためには、入学前教育として導入しているメジブプロの取組は重要である。A 評価であることから、DP の達成に向けて評価できる。
・メジブプロ実力判断テスト	3 教科 (英・数・国) それぞれの正解率 60%以上	【製菓】 4 月：英語 62.1%、国語 89.2%、数学 78.3% 1 月：英語 60% 国語 94.3% 数学 82.8% 【ビジネス】 4 月：英語 61.5%、国語 69.0%、数学 71.2% 2 月：英語 56.2%、国語 71.8%、数学 67.6% 【歯科】 5 月：英語 66.8%、国語 67.6%、数学 70.3% 1 月：英語 55.5%、国語 66.3% 数学 61.3%	B	春学期、秋学期ともに3科目とも60%以上の正解率であった。春と年度末のテスト結果を比較すると、歯科衛生学科において数学が9ポイント下降したことから、メジブプロ内のドリル等を活用して、正解率の向上に努める。	3 学科それぞれの専門基礎力に相關する。自分の到達度を客観的に把握 する上で有効である。
・卒業後アンケート (卒業生アンケート※1)	学びの有効性 60%以上 ※アンケートの回答が5段階評価のため、結果を%表示に変換している。	卒業生アンケートの結果から「目白短大で学んだことは卒業後に活かすことができる」という設問では、学科ごとに差はあるが、短大全体では79.4%(前年度67.6%)であった。また、「短大生活での学びを振り返り、自信がついた」という設問では、短大全体で	S	「授業の内容に満足」、「目白短大で学んだことは卒業後に生かすことができる」がともに向上した。次年度も授業改善を含め、学びの有効性を高める。	短大 DP に掲げている「先行する分野の基礎的知識や技能、技術を修得し、活用することができ。」を達成するには、自信をつけさせることが大切である。

・就職先企業等に対する本学卒業生の学習成果調査 ※2	学びの有効性 60%以上	54.3% (前年度) 50.8%であった。	A	挨拶がしっかりとできると、想像力を働かせて相手の気持ちを察することができると、他者と比べて気落ちすることなくポジティブに考えられる思考などが求められていることが分かった。これらの能力をインターシップや臨地研修、地域連携をはじめ、キャリアデザインの授業等で行う。	短大での学びの有効性を確認するため、企業との懇談会や外部評価委員会、インターシップ先の企業や実習先との懇談など、さまざまな機会を通して、企業の求める人材と短大での学びを結び付けられるよう努める。
---------------------------------------	---------------------	-------------------------------	----------	---	--

※1：一般財団法人大学・短期大学基準協会の卒業生調査とする。

※2：企業との懇談会での意見聴取を含む。

各種委員会

内部質保証委員会

F D 実施委員会

教務委員会

学生委員会

就職・キャリア委員会

入試広報委員会

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価	評価シート7	組織名称（評価单位名称）	委員会・センター
カテゴリー	内部質保証		
担当委員会・センター（構成員数）	内部質保証委員会（52名）		
担当部署	大学改革推進室		
記載責任者（役職）	今野裕之（委員長・大学学長）、小松由美（副委員長・短期大学部学長）、池村えみ（内部質保証担当）		
会議概要（実績回数）	本委員会3回、大学・大学院部会3回、短期大学部会2回、大学外部評価委員会1回、大学学生評価委員会1回、短大外部評価委員会1回		
添付エビデンス	目白大学・目白短期大学部における内部質保証に関する規程（2023年3月1日改正施行）、内部質保証委員会会議資料・事概要、短大外部評価委員会報告書録・高大連携に向けた懇談会実施報告・企業との懇談会実施報告、大学外部評価委員会報告書、大学学生評価委員会報告書・各学科専門科目アセスメントポリシー 第5次中期目標・中期計画 https://www.mejiro.ac.jp/gakuen/pdf/mt_plan_2024-2028.pdf		

項目	2024年度 自己点検評価
事業内容	課題と2025年度の改善目標（Action） 【部門別自己点検年次評価報告書】 フォームの変更により、学科が自己点検・評価を行い、教育の質の保証、向上を自ら行うようにする。 【短大：外部評価委員会】 ・高大連携に向けた懇談会：引き続き、連携を深める懇談会を企画する。 ・企業との懇談会：参加企業数の向上を図る。 ・外部評価委員会：任期満了を迎える委員の選考を行い、委員会を開催する。 【大学：外部・学生評価委員会】 ・これまでの指摘事項、改善提案について、取りまとめ、教育の質向上に活用するため、まずは学内での共有と委員会活動のPRを行う。 ・外部評価委員会：スムーズな運営を目指し、9月には新構成員へ依頼書を送付し、第3期外部評価委員会をスタートさせる。 ・学生評価委員会：スムーズな運営を目指し、構成員の選出、委員会開催や事後処理を早期に行う。 【大学：新3方針の策定】（第5次中期目標・中期計画/ I.教育/2.DP等の見直し） ・各学科DP：2027年度3方針改正の準備を進める。 ・全学DP案：2026年度新共通科目改正に向けて、準備を進める。 【短大：新3方針の策定】（第5次中期目標・中期計画/ I.教育/1.Visionの明確化と教育課程の再編） ・各学科の新3方針を決定する。 ・学修成果の評価方法（アセスメントポリシー）の具体的評価方法を決定する。 【大学：IRの各種アセスメント分析】 ・アセスメント結果の迅速な集計と分析を行い、各種部門へフィードバックし、質向上に役立てる。 【第5次中期目標・中期計画】 進捗管理表をもとに着実に進める。なお、短大は2024年に選定された補助金事業を短大の第5次中期目標・中期計画に新たに項目として加え、進捗を確認する。 【機関別認証評価への対応】 ・大学、短大ともに資格審査委員会、無期化審査委員会を適切に実施し、設置基準上の教員数を確保する。 ・大学の収容定員充足については、指摘学科以外も含め、検討委員会を設立し、将来的な構想を充分な議論を行い、改善する。 ・短大においても、定員充足を目指し、短大教職員一丸となって対応する。 【アセスメント結果の活用】 第3回内部質保証委員会にて、アセスメント結果に関する評価と改善について提案し、承認されたこと受け、大学6項目、短大6項目について、改善を進め、データに基づく意思決定を推進する。 【学修成果の可視化】 学生が成長できたと実感できる、学生が何ができるようになったのかを話すことができるような成長を可視化するシステムの導入を検討する。
	改善に向けての具体的な計画（Plan） 【部門別自己点検年次評価報告書】 2025年度作成（2024年度版）より、データ編を充実させ、入学定員充足率、収容定員充足率などを示し、各学科で経営・財政の安定性の確認、教育資源の適切な運用ができていないか、自己点検を可能にする。また、各学科のシートに専門科目アセスメントポリシーとの連動した資格・検定の取得状況を加えることで、各学科の成績評価以外の能力評価の点検を可能にする。 【短大：外部評価委員会】 ・高大連携に向けた懇談会：引き続き、連携を深める懇談会を企画し、より多くの情報を収集して、教育へのフィードバックを行う。 ・企業との懇談会：開催日程が内定式前という繁忙期であったため、参加企業数が減少した要因から、2025年度は開催日程を再検討する。また、懇談会での意見を教育課程や教育方法に反映させ、効果的に活用する。 ・外部評価委員会：議論の活性化のため、委員の構成、委員数の増員を検討する。 【大学：外部・学生評価委員会】 ・報告書の作成に加え、提案事項についてエビデンスとともに関連部門へのフィードバックを行い、質向上に活用する。また、執行部へは分析結果のフィードバック、肯定的な声や高評価の共有、課題の共有を行い、エビデンスに基づく意思決定を促進する。 ・外部評価委員会：9月には第3期構成員へ依頼状の発送を完了する。 ・学生評価委員会：11月中には構成員が確定するよう準備する。また、テーマ策定・アンケート実施など委員会準備や事後処理を早める。 【大学：新3方針の策定】 ・各学科DP：2025年の春学期中に全学科のDP案を共有、12月には確定版の周知を進め、規程改正の準備を進める。 ・全学DP：2025年度の早期に執行部で審議し、全学で共有後に規程改正を行う。 ・アセスメントポリシーの見直しを行う。 【短大：新3方針の策定】（第5次中期目標・中期計画/ I.教育/1.Visionの明確化と教育課程の再編） ・各学科の新3方針を決定する。 ・学修成果の評価方法（アセスメントポリシー）の具体的評価方法を決定する。

⑥【大学:IRの各種アセスメント分析】	・GPS-AcademicのAP点検活用を進める。 ・執行部へ分析結果のフィードバック、肯定的な声や高評価の共有、課題の共有を行い、エビデンスに基づく意思決定を促進する。 ・AP点検及び入学前教育の点検方法を検討する
⑦【第5次中期目標・中期計画】	策定した計画のもと、タスクフォースで着実に進める。なお、短大は2024年に選定された補助金事業を短大の第5次中期目標・中期計画に新たに項目として加え、進捗を確認する。
⑧【機関別認証評価への対応】	・引き続き、教員数については短大も含め、計画的に人材を採用・配置・育成・評価し、資格審査委員会で随時対応する。 ・大学は、3つの分科会、4つの作業部会で改組等を着実に進める。
⑨【アセスメント結果の活用】	各項目（大学6項目、短大6項目）の具体策を学部長等会議、教授会等にて各学科で共有するとともに改善状況を随時確認する。
⑩【学修成果の可視化】	学修成果の可視化にあたり、他大学の事例やシステムについて情報収集を行い、本学にとって適切な活用できるシステムを検討する。

項目	2025年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入
1. 取組状況 (Do)	①【部門別自己点検年次評価報告書】 2025年度作成(2024年度版)より、入学定員充足率、収容定員充足率などを示した。各学科のシートに専門科目アセスメントポリシーとの連動した資格・検定の取得状況を加えた。 ②【短大:外部評価委員会】 ・高大連携に向けた懇談会は、オンライン形式から対面に変更し、2回(①5月28日、②12月2日)した。なお、2回とも授業見学会を行い、その後で懇談会を行った。 ・企業との懇談会(10月16日)を開催した。 ・外部評価委員会(11月8日)を開催し、テーマは「教育」「学生募集」「研究」「学生指導」「社会貢献」等であった。 ③【大学:外部・学生評価委員会】 ・外部評価委員会:2月13日に開催し、テーマは、「就職・卒業後の進路から教育の効果について」と「2025年度入試結果報告」であった。 ・学生評価委員会:新宿CP:1月27日、岩槻CP:1月29日に開催した。テーマは「学生の学びの視点から考える、PC・AIを活用した授業改善」として、意見交換を行い、提案書を提出した。 ④【大学:新3方針の策定】(第5次中期目標・中期計画/Ⅰ.教育/2.DP等の見直し) ・第5次中期目標・中期計画に則り、各学科と3方針タスクフォースがワークショップ型で話し合いを進め、全学科新3方針が確定した。 ⑤【短大:新3方針の策定】(第5次中期目標・中期計画/Ⅰ.教育/1.Visionの明確化と教育課程の再編) ・第5次中期目標・中期計画に則り、各学科の新3方針が確定した。 ・学修成果の評価方法(アセスメントポリシー)を策定した。 ⑥【大学:IRの各種アセスメント分析】 ・GPS-AcademicのAP点検活用を進める。 ・情報システム課の協力を得て、アンケート集計の迅速化を行った。 ⑦【第5次中期目標・中期計画】 策定した計画のもと、執行部を中心に各タスクフォースで計画に沿って推進した。 ⑧【機関別認証評価への対応】 ・大学・短期大学部ともに、引き続き、教員の計画的に人材を採用・配置・育成・評価し、資格審査委員会で随時対応した。 ・大学は、3つの分科会、4つの作業部会で改組等を着実に進めた。 ⑨【アセスメント結果の活用】 大学では、第2回内部質保証委員会で報告された評価と改善について、第5回学部長等会議にて共有した。 ⑩【学修成果の可視化】 情報システム課の協力を得て、統合学生データ閲覧システムの運用がスタートした。なお、学修成果の可視化にあたり、外部システム導入の検討を行った。
2. 点検・評価 (Check)	①【部門別自己点検年次評価報告書】 入学定員充足率、収容定員充足率などを示し、教育資源の適切な運用ができていないか、点検した。また、各学科にて専門科目アセスメントポリシーとの連動した資格・検定の取得状況から、成績評価以外の能力評価の点検を可能にした。 ②【短大:外部評価委員会】 ・高大連携に向けた懇談会は、授業見学を行うことによって本学への理解が深まり、その後の意見交換も活発に行われ、より多くの情報を収集して、教育へフィードバックすることができた。 ・企業との懇談会では、研修担当者の参加により、本学卒業生の活躍や仕事への取り組み状況の理解が深まった。 ・外部評価委員会では、委員の意見から、地域連携・高大連携についての示唆が得られ、短期大学部内で共有し、教育活動に活かす。 ③【大学:外部・学生評価委員会】 ・外部評価委員会:国家試験合格率、就職率、就職先満足度からの国家資格対策や就職支援について高い評価が得られた。 ・学生評価委員会:PC/AI活用において、学生からの大学教育等において本学で改善すべき点の意見が得られ、授業運営等の改善に役立てるため、内部質保証委員会で共有し、実現に向けて対応する。(新共通科目の授業運営や教員研修プログラム) ④【大学:新3方針の策定】(第5次中期目標・中期計画/Ⅰ.教育/2.DP等の見直し) ・3方針が確定し、規程に則り、教授会承認後に学長へ提案した。 ⑤【短大:新3方針の策定】(第5次中期目標・中期計画/Ⅰ.教育/1.Visionの明確化と教育課程の再編) ・3方針が確定し、規程に則り、教授会承認後に学長へ提案した。 ・学修成果の評価方法(アセスメントポリシー)を策定し、規程改正の準備を進めた。 ⑥【大学:IRの各種アセスメント分析】 ・GPS-Academicの実施は2年目となり、次年度の3年次実施(経年)の活用について、学務部長(進路担当)、キャリアセンターと話し合いを行った。 ・英語力の経年計測が5年経過したが、期待した成果指標として十分な活用ができなかったため、2025年度をもって実施を終了した。 ⑦【第5次中期目標・中期計画】 目標達成の手法(計画)について、概ね計画どおり進捗しているが、一部の取組については実施時期等の見直しを行いながら推進している。

事業内容	⑧【機関別認証評価への対応】 ・教員の配置については、短期大部の特定学科のみ確保できない状況であった。 ・大学は、韓国語学科改組による韓国学部設置、作業療学科の定員減を実現した。 ⑨【アセスメント結果の活用】 ・大学はアセスメント結果による改善策を教授会で幅広く教員へ示すことで、全学的な教育改善の推進、改善意識の醸成を図った。 ・短期大学は常に教授会にてアセスメント結果の共有を行い、評価と改善のサイクルを回している。 ⑩【学修成果の可視化】 統合学生データ閲覧システムは10月から運用が開始され、入試データ、成績データ、就職先データと、データの統合が図られた。なお、当該データを基に、学修データを可視化し、学生一人ひとりの成長を支援、教育改善と教学マネジメントを支援するシステムの導入の検討を行った。
	3. 課題と次年度の改善目標 (Action) ①【部門別自己点検年次評価報告書】 自己点検評価報告書は、記載項目が多く作成負担が大きいことから、報告書作成が目的化し、PDCAサイクルによる教育改善につながりにくい状況となっている。 ②【短大:外部評価委員会】 外部から得られた意見や提言を、教育改善へ継続的かつ組織的に反映し、その改善効果を検証する仕組みを一層充実させる必要がある。 ③【大学:外部・学生評価委員会】 ・外部評価委員会:評価結果から改善事項を抽出し、改善に活かす仕組みを構築する。 ・学生評価委員会:学生からの提案を授業改善に活かす仕組みを構築する。 ④【大学:新3方針の策定】(第5次中期目標・中期計画/Ⅰ.教育/2.DP等の見直し) ・新3方針施行に向けて、手続きを滞りなく行う。 ・DPとAPの評価について施行前に各学科で整理する。 ⑤【短大:新3方針の策定】(第5次中期目標・中期計画/Ⅰ.教育/1.Visionの明確化と教育課程の再編) ・新3方針施行に向けて、卒業認定・学位授与等の方針に関する規程改正の手続きを滞りなく行う。 ・DPとAPの評価について施行前に各学科で整理する。 ⑥【大学:IRの各種アセスメント分析】 ・IRアセスメント分析結果の共有・活用を一層迅速化するため、可視化システムを導入し、各学科が必要なデータを適時に確認・活用できる環境を整備する。 ⑦【第5次中期目標・中期計画】 第5次中期目標・中期計画は3年目を迎えることから、社会情勢や大学を取り巻く環境の変化、新たな課題に対応するため、計画内容を適宜見直し、目標達成に向けた取組を加速する。 ⑧【機関別認証評価への対応】 ・大学・短期大学部ともに、引き続き、教員の計画的に人材を採用・配置・育成・評価し、資格審査委員会で随時対応する。 ・大学:改善報告書を2026年7月提出に向けて準備する。引き続き、定員確保に努める。 ・短大:2028年度受審に向けて、短期大学部、ALO及び大学改革推進室が連携・情報共有を図りながら、計画的に準備を進める。 ⑨【学修成果の可視化】 統合学生データの有効活用に向け、学修成果の可視化及び学生一人ひとりの成長を支援するシステムの導入を進める。
	4. 改善に向けての具体的な計画 (Plan) ①【部門別自己点検年次評価報告書】 自己点検評価の様式を見直し、記載負担の軽減と視認性の向上を図るとともに、改善状況が把握しやすい構成へ改め、PDCAサイクルの実効性を高める。 ②【短大:外部評価委員会】 高校・企業・外部評価委員会から得られた意見を体系的に整理・共有し、学科会議やFD等を通じて教育活動へ反映するとともに、改善状況を自己点検評価により継続的に検証する。 ③【大学:外部・学生評価委員会】 ・外部評価委員会の指摘事項を改善項目として整理し、担当部署・対応期限を明確にした改善管理表を作成する。 ・学生評価委員会での学生からの提案事項を分類・整理し、関係部門へフィードバックするとともに、改善状況を確認・共有し、授業改善及び教育環境の改善につなげる。 ④【大学:新3方針の策定】(第5次中期目標・中期計画/Ⅰ.教育/2.DP等の見直し) ・各学科FDIにおいて、AP評価フォームを作成し、APの評価方法を整理するとともに、DPを到達目標としたカリキュラムツリーを点検・整備し、各授業科目におけるDP達成への役割を明確化する。 ⑤【短大:新3方針の策定】(第5次中期目標・中期計画/Ⅰ.教育/1.Visionの明確化と教育課程の再編) ・卒業認定・学位授与等の方針に関する規程2026年度内に規程改正とDPとAPの評価の具体策を示す。 ⑥【大学:IRの各種アセスメント分析】 ・学修成果可視化システムを導入し、IR・アセスメントデータをダッシュボードで可視化するとともに、各学科へ分析結果を迅速にフィードバックする。 ⑦【第5次中期目標・中期計画】 ・中期計画の進捗状況を可視化し、定期的な進捗管理を実施する。 ・KPI(目標指標)の達成状況を可視化し、重点的に取り組む事項を明確化する。 ⑧【機関別認証評価への対応】 ・大学・短期大学部ともに、各学科の年齢構成、専門分野及び担当科目を踏まえた人事計画を確認し、将来を見据えた教員配置を検討する。 ・大学:改善事項の継続的な実施・検証を行い、定員確保に向けた取組を推進する。 ・短大:短期大学部、ALO及び大学改革推進室が定期的な情報共有・進捗確認を行い、自己点検・評価の実施、根拠資料の整理及び改善事項の確認を計画的に進める。 ⑨【学修成果の可視化】 ・学修成果可視化システムを導入し、学生一人ひとりの学修状況や成長を可視化するとともに、学修支援及び履修指導に活用する。

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価	評価シート7	組織名称（評価单位名称）	委員会・センター
カテゴリー	FD活動（新宿キャンパス）、全学FD研修会		
担当委員会・センター（構成員数）	FD実施委員会		
担当部署	大学改革推進室、高等教育教育研究所		
記載責任者（役職）	石川 大学新宿キャンパスFD実施委員長/上岡 短期大学部FD実施委員長		
会議概要（実績回数）	FD・SD推進委員会（4回）/キャンパス合同FD実施委員会（1回）		
添付エビデンス	「目白大学新宿キャンパス各種委員会規程」、「目白大学短期大学部各種委員会規程」、「目白大学・目白大学短期大学部FD・SD推進委員会規程」 2025年度第1～4回FDSD推進委員会資料、同議事概要、2025年度 第1回全学FD研修会実施概要、2025年度 第1回全学FD研修会報告、2025年度 第2回全学FD研修会実施概要、2025年度 第2回全学FD研修会報告、2025年度 FD実施委員会（キャンパス合同）議事概要、目白大学・目白大学短期大学部 FD活動の目標、2025年度「FD活動実施計画書」一覧、2025年度「FD活動実施報告書」		

項目	2024年度 自己点検評価
事業内容	課題と2025年度の改善目標（Action） ①【全学FD研修】高い参加率を保ちつつ、教育力の向上・研究活動の活性化のため、全学FD研修内容を充実させる。 ②【部門別FD研修】引き続き、各学部学科の特色を生かした教育・研究の質の向上を図るため、部門別FD活動を推進する。なお、2025年度はFD活動の実質化を推進する。 ③【新任者SD】引き続き、新任者が本学の理解を向上させスムーズな業務遂行を行うため、更なる充実を図る。 ④【短期大学部FD】学生による授業評価で高い評価を得た教員が実践している工夫や実践事例の共有を行う。
	改善に向けての具体的な計画（Plan） ①【全学FD研修】高い参加率を保ちつつ、教育力の向上・研究活動の活性化のため、全学FD研修内容を充実させる。 ②【部門別FD研修】2025年度のFDテーマを、第5次中期目標・中期計画の内容に即したテーマとし、加えて、大学は「新DPの達成度をどう測るか」、「学科専門科目に文理融合型問題解決学習をどのように導入するか」等、短大は「学生の学習意欲のボトムアップに繋がるポートフォリオの見直し」、「メジプロの効果測定とGPAの相関分析」、「学生主体の学びとなる授業展開の手法」とした。また、学科等のFD活動報告書を2025年度内に回収し、優れた取り組みに関して、2025年度に全学FD研修、学部長等会議、教授会等で共有することを計画する。 ③【新任者SD】研修内で懇談の時間を設け、新任者の不安を払拭する研修が可能か、検討する。 ④【短期大学部FD】9月と10月の教授会終了後のFD研修会において、学生による授業評価で高い評価を得た教員から事例報告をし、教授法のスキルアップに繋げる。

項目	2025年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入
事業内容	1. 取組状況（Do） ①【全学FD研修】第一回全学FD研修（9月）のFD（コンプライアンスはSD）は例年通りのプログラムで行った。第二回全学FD研修（2月）はテーマを「学生の『学び』のための授業デザインについて考える」として、中嶋 康二 教授（関西国際大学 評価センター長）による講演と、「FD活動報告書に基づくFD活動の概要と成果報告（3学科）」、「2025年度採択STEAM教育推進事業の取組報告（2事例）」をオンデマンド動画で配信した。 ②【部門別FD研修】2024年度は、大学は、「新DPの達成度をどう測るか」「学科専門科目に文理融合型問題解決学習をどのように導入するか」とし、短期大学部は「学生の学習意欲のボトムアップに繋がるポートフォリオの見直し」「メジプロの効果測定とGPAの相関分析」「学生主体の学びとなる授業展開の手法」とした。 ③【新任者SD】2026年3月25日に新任者21名（25名中）が参加した研修を行った。 ④【短期大学部FD】就職先である企業及び医療機関等へのアンケート結果から、PCの基本操作スキルや資料作成に課題があることが明らかになった。これを踏まえ、教育内容改善に向けたFD活動の一環として、情報系科目の教育内容と指導方法の共有を行うとともに、LMS（学習管理システム：Schoo Swing）の授業への活用方法をテーマに取り上げた。
	2. 点検・評価（Check） ①【全学FD研修】9月のFD（コンプライアンスはSD）は参加率100%であった。また、事後アンケート調査回答の満足度（「とても満足」+「満足」）では、「コンプライアンス研修」、「研究倫理教育」の97.3%、「研究成果報告」は95.2%であり、前年度より微増の高い評価を得た。2月全学FD研修会は96.9%の参加率であり、事後アンケート調査回答の満足度（「とても満足」+「満足」）では、第一部講演会は88.5%、第二部オンデマンド研修は94.0%、第三部オンデマンド研修は94.6%という高い満足度であった。 ②【部門別FD研修】大学では、DPや3方針については5学科、STEAM教育については人間学部が取り上げた。短期大学部では、短期大学部全学FDでメジプロと授業手法について取り上げた。 ③【新任者SD】2025年度も大学・短大パートを充実させ、教務事項の説明を行い、スムーズな授業開始を図った。（なお、教務事項の説明はキャンパス別に行い、さいたま岩槻キャンパスは後日、さいたま岩槻キャンパス内で行った） ④【短期大学部FD】1月の研究交流会で科目担当教員による模擬授業（テーマ「短期大学における情報系授業の実践」）を実施した。この研究交流会を、各授業におけるICT活用や課題設定の在り方を見直す契機とし、授業改善が図られた。

業 内 容	3. 課題と次年度の改善目標 (Action) ①【全学FD研修】高い参加率を保ちつつ、教育力の向上・研究活動の活性化のため、全学FD研修内容を充実させる。 ②【大学教育力向上研修】教育力向上や教学マネジメントの向上を目的とした研修を行う。また、各学科でのFD研修も引き続き実質化を推進する。なお、学部学科別FDでは、APで示している内容が各種選抜方法で適切に評価できるか、またDPで掲げている能力や資質について、卒業認定の際にどのような基準や方法によって確認するのかを整理をテーマとした。 ③【新任者研修】3月末は引き続き、新任者が本学の理解を向上させスムーズな業務遂行を行うため、開催する。また、2026年度入職の新任者に対して、研修を行う。 ④【大学学部・学科別FD研修】第5次中期目標計画に則り、新3方針が確定したので、新3方針関連のFDを行う。 ⑤【短期大学部FD】FD研修会や教員相互の授業参観などを通して、「学生主体の学びになっているか」という観点から授業改善を行い、継続的にブラッシュアップを図る。
	4. 改善に向けての具体的な計画 (Plan) ①【全学FD研修】9月に研究活動活性化のための研修、2月に教育力向上を目的とした研修を行う。 ②【大学教育力向上研修】教育力向上を目的とした、全教員対象研修、新任教員研修、非常勤講師研修を行う。また、教学マネジメントの向上を目的とした学科長研修、エクゼクティブSDを行う。さらに学部学科別の研修では、統一テーマを2027年度施行の「新APと入試種別の対応表の作成」「DPのためのカリキュラムツリーの作成」とした。 ③【新任者研修】2026年度新任者FDとして、シラバスの作成スキル、授業方法のスキル向上を目的とした新任者研修を行う。(8月3&4日の2日間連続) ④【大学学部・学科別FD研修】別APで示している内容が各種選抜方法で適切に評価できるか、またDPで掲げている能力や資質について、卒業認定の際にどのような基準や方法によって確認するのかを整理をテーマとした。具体的には、「入試種別別のAP対応表の作成」「DPのためのカリキュラムツリーの作成」とした。 ⑤【短期大学部FD】学科別FDでは、「高校新学習評価に照らした、入学前教育、初年次教育の内容の見直し」をテーマとした。

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価	評価シート7	組織名称（評価单位名称）	委員会・センター
カテゴリー	教務支援		
担当委員会・センター（構成員数）	教務委員会（大学：26名、短大：3名）		
担当部署	大学事務局新宿キャンパス教務部教務課		
記載責任者（役職）	西尾 典洋（学務部長（教務担当））、吉岡 大地（教務部長）		
会議概要（実績回数）	11回		
添付エビデンス	①「遠隔授業について」→2025年度遠隔授業実施の可否（卒業研究を除く）、2026年度の遠隔を含む授業実施の理由書 ②「SchooSwingについて」→活用状況レポート、Schoo Swing 使い方ガイド ③「遠隔授業（総合科目）の配信及び課題提出の曜日時間について」→2025年度 学年暦（250110時点） ④「臨地研修について」→「臨地研修」に関する申し合わせ（2025年4月更新）		

項目	2024年度 自己点検評価
事業内容	課題と2025年度の改善目標（Action） ① 遠隔授業について ・2025年度はクォーター授業（対面と遠隔を組み合わせ、週2回実施、8週で完結）を1科目開講する。また、教務委員に周知し、他の科目においても導入可能か検討していく。 ② SchooSwingについて ・休講時の補講においてSchooSwingを利用したのオンデマンド配信は定着してきている。一方で対面授業時のSchooSwingの活用が教員に浸透していない状況を改善する。 ③ 遠隔授業（総合科目）の配信及び課題提出の曜日時間について ・2023年度より課題配信を金曜日8時、課題提出締め切り火曜日21時での運用を行ってきた。学生より5限終了してから自宅に帰る時間が21時を過ぎるため22時締め切りの声があり、再度曜日時間について検討課題となった。
	改善に向けての具体的な計画（Plan） ① 遠隔授業について ・クォーター授業での学生の理解度等を測り、結果が良ければ他の授業においても、クォーター授業（週2回実施、8週で完結）を積極的に導入していく。 ② SchooSwingについて ・操作について説明会を開催し、SchooSwingの利用者数を増やす。※2024年度利用教員数：全担当教員数（専任・非常勤）576名中、378名利用、利用率66% ・SchooSwingの利用したのモデル授業を教員に提供する。 ③ 遠隔授業（総合科目）の配信及び課題提出の曜日時間について ・学生の課題を取り組む時間を確保するため、1日早めて木曜日の配信を議論した。 ・提出締め切り時間が22時であると、教員が勤務時間外での対応が増えることから、現状の21時で据え置きとの意見交換を行った。

項目	2025年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入
事業内容	1. 取組状況（Do） ①【遠隔授業について】 2025年度に1科目「英語教育学演習」（履修者43名）においてクォーター授業を実施できた。（2024年度は授業を設定したが、残念ながら閉講となっていた。） ②【SchooSwingについて】 操作説明会は次年度実施となったが、2025年10月にスクー社より本学での対面授業活用事例を含めた使い方ガイドを作成していただき、全教員に配布をし利用を促した。 ③【遠隔授業（総合科目）の配信及び課題提出の曜日時間について】 配信曜日を金曜日から木曜日に変更し、提出締め切り時間は変更せず21時とした。
	2. 点検・評価（Check） ①【遠隔授業について】 受講生へのアンケートでは約8割が本授業形態に好意的であり、授業の間隔が短く内容を忘れずに済み、遠隔授業の内容を対面授業時に深めることができるなど、学習効果面でも好意的であった。 ②【SchooSwingについて】 2025年度の活用授業数は1,404授業（前年度1,240授業）、活用教員数395人（594人中）であり、教員3人に2人が活用するようになった。 ③【遠隔授業（総合科目）の配信及び課題提出の曜日時間について】 教員及び学生からの特段の意見はなく、スムーズに課題配信・提出ができた。
	3. 課題と次年度の改善目標（Action） ①【遠隔授業について】 2025年度はクォーター授業を1科目実施し、受講生アンケートでも概ね好意的な結果が得られた。一方で、新カリキュラム導入が延期されたため、当面は限定的な導入にとどめ、教育効果や運用上の課題を継続して検証する。 ②【SchooSwingについて】 SchooSwingの活用授業数・活用教員数は前年度より増加しており、利用は定着しつつある。2026年度はGW期間におけるオンデマンド授業の実施に先立ち、4月22日にSchoo社による初心者向けの操作説明会を実施する。利用の定着と、対面授業における効果的な活用方法の共有が今後の課題である。 ③【臨地研修について】 臨地研修等に係る報告書・計画書については、学科からの提出内容を教務委員会で確認し、必要に応じて修正依頼等の調整を行っている。一方で、確認観点や提出後の対応が案件ごとに異なる場合があり、確認作業の属人化や期日管理上の課題が生じる可能性がある。2026年度は、報告書・計画書の確認プロセスを改めて整理し、確認漏れや対応のばらつきの防止を図る。
	4. 改善に向けての具体的な計画（Plan） ①【遠隔授業について】 2025年度に実施したクォーター授業のアンケート結果や運用状況を確認し、教育効果や学生の受講状況を検証する。2027年度新カリキュラム導入までの間は、対象科目を限定しながら、導入の可能性について慎重に検討する。 ②【SchooSwingについて】 2026年4月22日に実施する操作説明会の内容を踏まえ、教員への周知を継続する。また、SchooSwingを活用した授業事例を今後も共有するなど、対面授業・遠隔授業の双方における利用促進を図っていく。 ③【臨地研修について】 臨地研修等に係る報告書・計画書について、提出期限、確認項目、修正依頼の流れを改めて整理し、教務委員会で共有する。また、提出状況について、修正中・確認済み等の状況を把握できるようにすることで、確認漏れや対応のばらつきの防止につなげる。

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価	評価シート7	組織名称（評価单位名称）	委員会・センター
カテゴリー	学生支援（厚生補導）		
担当委員会・センター（構成員数）	学生委員会（18名） ※事務局職員を除く		
担当部署	大学事務局新宿キャンパス学生部学生課		
記載責任者（役職）	鷲谷正史（学務部長学生担当）、高橋寛（学生部長）		
会議概要（実績回数）	10回		
添付エビデンス	学部長等会議議事概要、学生委員会議事概要、大学Webサイト、特定支援団体運営委員会資料、桐光会総会及び奨学委員会資料、学生相談室連絡会議資料		

項目	2024年度 自己点検評価
事業内容	課題と2025年度の改善目標（Action） ①【課外活動の活性化】予算消化率が14%であった。（予算200万円）今後、制度の周知に努め、応募企画の質の維持と利用拡大を図っていく必要がある。 ②【特定支援団体チアリーディング部】部員数を16名とすべく、引き続き入試広報部と連携し部員獲得に努めるとともに、オープンキャンパスでの対応を改善する。 ③【学生相談室】学生の相談への敷居を下げ、困りを抱えたときの身近な相談窓口の一つとして定着していくように周知活動のさらなる充実を図る。 ④【新入生データ関係業務】新たな学生証交付手続きの効果は高かったが、手順を詰め切れていなかった点で、事務側の処理負担が大きくなってしまっていた。 ⑤【桐光会奨学金】修学支援新制度拡充による影響及び桐光会のあり方に関わる議論等を踏まえ、制度改正に関わる議論の深化及び予算規模の適正化を図る。 ⑥【桐和祭】来場者数10,000人を目指す。特に本学学生の来場増を図ることが課題となっている。
	改善に向けての具体的な計画（Plan） ①【課外活動の活性化】教務ポータルサイトの活用、学生委員への協力依頼、成果発表の更なる工夫等により、制度の周知と定着を図る。 ②【特定支援団体チアリーディング部】オープンキャンパス時に卒業生へ協力を依頼し、受験希望者へ具体的な経験談を話す機会を設け、出願に繋げる。 ③【学生相談室】学生相談室便りの内容を充実させ、ホームページ掲載だけでなく、学内掲示や相談室での配布などで学生の目に留まりやすいように工夫する。 ④【新入生データ関係業務】学生証交付手続きの仕組み及び作業手順の改善箇所は既に確認済であるため、年内に新たな手順を確立し安定運用を目指す。 ⑤【桐光会奨学金】制度改正に向け奨学委員会での意見集約を図っていく。 ⑥【桐和祭】年度当初から学生向けの広報活動を積極的に展開するとともに、認知度及び開催機運を高めるためのイベント等を開催する。

項目	2025年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入
事業内容	1. 取組状況（Do） ①【課外活動の活性化】学生会、学務部長、学生部が連携して「学チカ・クリエイト」の周知と制度活用促進に努め、6件の企画が採択された。 ②【特定支援団体チアリーディング部】入試広報部との協働による広報活動、高校訪問等のほか、卒業生の協力を得てオープンキャンパスでの見学会の充実を図った。 ③【学生相談室】相談室だよりの定期発行を行った。前年度に引き続き、新入生オリエンテーションでの挨拶、出張授業やFD研修、WSなどを行い、相談室の周知につながる活動を行った。 ④【新入生データ関係業務】新たに「VPN接続」への対応が課題として出現したが、各部署の協力を得て概ね問題なく運用・学生証交付が行えた。 ⑤【桐光会奨学金】奨学委員、学内関係者等と個別に意見交換を行った。 ⑥【桐和祭】テーマの世界観の具現化、SNSや地元商店街との連携等による対外的な発信、マスコット（「桐子」）を活用した催し等を行った。
	2. 点検・評価（Check） ①【課外活動の活性化】前年度比1件減となったが、地域連携イベント、学科横断プロジェクト等の新たな試みが採択される等、制度活用の幅の広がりや内容の深化を見るに至った。 ②【特定支援団体チアリーディング部】新規入部3名を含めて部員数は13名に留まり目標の16名に届かず。但し初の男子部員獲得は今後につながる前向きな要素といえる。 ③【学生相談室】前年度に引き続き、大学全学部学科の学生の相談室利用がみられた。オリエンテーションでの相談員による案内によって来談の敷居が下がった学生もいた。 ④【新入生データ関係業務】締め切りにあわせてリマインドをこまめに行った結果、入学者が増加したにも関わらず、昨年度よりも不備者の削減が図れた。 ⑤【桐光会奨学金】年度内に今後の奨学金の在り方についての結論を得て、関係規程の改正を行うには至らなかった。 ⑥【桐和祭】来場者1万人、在校生の来場増については目標未達に終わったが、テーマの世界観の実現という点では一定の成果をあげることができた。
	3. 課題と次年度の改善目標（Action） ①【課外活動の活性化】申請件数及び予算消化率向上には認知度向上策が必要である。 ②【特定支援団体チアリーディング部】部員、見学者の出身高校との関係性を深め、当該高校から継続的に入部希望者ができるように努める。 ③【学生相談室】引き続き個別対応や関係者への連携を丁寧に行いつつ、ワークショップなど心理的予防教育につながる企画を充実させる。 ④【新入生データ関係業務】「VPN対応」と「郵送書類の対応方法」の負担が大きいため、効率化のための見直しを目標とする。 ⑤【桐光会奨学金】高等教育の修学支援新制度の拡充による申請減及び昨今の物価高騰等に対応すべく、制度の拡充を図る。 ⑥【桐和祭】在学生の参加、近隣地域への配慮等の課題について改善し、桐和祭の深化を図る。

4. 改善に向けての具体的な計画(Plan)

- ①【課外活動の活性化】学生会の主体的取組みを促し、SNS、オープンキャンパス、桐和祭等での発信を強化することによりプロジェクトの認知度を高める。
- ②【特定支援団体チアリーディング部】入試広報部と連携し男子部員の存在を活かした広報活動を展開する等して部員16名確保を目指す。
- ③【学生相談室】個別面接で来談する学生以外にも予防教育的アプローチを充実させるため、全学に対するワークショップや、新しいミニワークショップを開催する。
- ④【新入生データ関係業務】郵送書類の分割や、届いた書類の振り分け作業の見直し、より早い段階での到着情報の整理とリマインド配信を行う。
- ⑤【桐光会奨学金】2027年度の施行を目指し、修学支援奨学金の家計状況の緩和及び一人暮らし学生支援奨学金の新設(復活)を柱とする関係規程の改正を行う。
- ⑥【桐和祭】魅力あるテーマ設定、出展促進等により在学生の参加増及び来場者増を図るとともに、野外企画の音量等に配慮し近隣との共存を図る。

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価	評価シート7	組織名称（評価单位名称）	委員会・センター
カテゴリー	進路指導		
担当委員会・センター（構成員数）	就職・キャリア委員会(23名)		
担当部署	就職支援部		
記載責任者（役職）	松井広美学務部長(進路担当)、鈴木あ久利(就職支援部長)		
会議概要（実績回数）	2025年度就職・キャリア委員会議事概要(11回)		
添付エビデンス	2025年度就職・キャリア委員会議事概要(11回)、キャリアブック、保護者のための就職活動支援ガイド		

項目	2024年度 自己点検評価
事業内容	課題と2025年度の改善目標（Action）
	① キャリア教育プログラムが、キャリア教育専任教員、非常勤教員、キャリア委員、就職支援部との連携のもと、より高い効果を得られるよう実践していく。
	② 就職活動の早期化に合わせ、電話かけを5月からとさらに早めて実施し、早い段階から就職支援部、キャリア教員と連携しつつ、学生の個々の情報を共有していく。
	③ 「キャリア研修Ⅱ」の受講要件を「キャリア研修Ⅰ」同様に柔軟に検討し、「キャリア研修Ⅰ」からのスムーズな受け皿とする。
	④ 学生から見て、キャリアセンターが入りにくい場所というイメージへの障壁を減らせるよう、より学生が話しやすい環境を提供しながら、ガイダンスと全員面談への参加率を伸ばす。
	⑤ 就職・キャリア委員会の勉強会が、更に実践的で役立つものとなるよう、内容・やり方・時期の検討を行い、内容を充実させて実施していく。
	⑥ 年間を通して行っているガイダンスや講座については、学生からのニーズに鑑みて実施できるよう精査し、適宜アンケートやフィードバックを行い、吟味して実施する。
	⑦ 大学生対象保護者対象就職説明会について、早めた開催時期が今年も適当であるかどうか、また内容が保護者にとって満足 of のいくものとなっているかどうかを検討する。
	⑧ 学内合同企業セミナーでは、学生にとってより魅力的な企業に多く学内合同企業セミナーに参加してもらえるよう、企業選びについて検討し、声がけを行う。
	⑨ これまでの卒業生アンケートおよび企業アンケートの結果を俯瞰し、学生への就活支援、保護者への対応に活かす。
	⑩ 資格取得を奨励する「就職に役立つ資格・検定ガイド」について、内容・今後の発行頻度・配布対象・配布するタイミングについて検討する。
	改善に向けての具体的な計画（Plan）
	① キャリア教育プログラムの基本方針およびカリキュラム構成について、全体方針と合わせて見直しを行い、学生や関係者に周知し運営していく。
	② 電話かけをして学生の状況を掴むと同時に、キャリア委員、各学科のゼミ教員との情報連携を深め、最終的な電話かけをする件数をなるべく少なくしていく。
	③ 「キャリア研修Ⅰ」と「キャリア研修Ⅱ」への学生満足度を上げ、参加学生が研修期間の自己の変化や成長に気づけるよう、研修前後でアンケートを実施する。
	④ 全員面談の機会をその後も有効に活かせるよう、面談時のアンケートや配布物を検討し、必要な学生にはその後のフォローに繋げていく。
	⑤ 勉強会への講師やテーマについて、これまで実施してきた内容の検討を行い、委員のアンケートなどを通じて新たな内容を加えていく。
	⑥ ガイダンスや講座情報については、必要としている人へ適切な支援が届けられるよう、ツールや機会、タイミング等を工夫して学生への周知を図っていく。
	⑦ 保護者からの意見を汲むためにアンケートを回収し、その結果を見直し、次回以降に改善できるところは就職支援部内就職・キャリア委員会で共有して申し送る。
	⑧ 卒業生を多く受け入れている企業について、その良さが参加学生に伝わるよう学内合同企業セミナーの規模を小さく、回数を増やすなど、より個に寄り添ったセミナーを検討する。
	⑨ 卒業生アンケートおよび企業アンケート全体について引き続きIRと連携して進め、今後行う際により多くの声が得られるよう、気を付けるべき点について共有しておく。
	⑩ 資格取得へのモチベーションに繋がる「資格奨励金制度」について大学部分の精査、検討を行い、必要があれば提案していく。

項目	2025年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入
	1. 取組状況（Do）
	① 2025年度のキャリア教育として、「専門と社会」「仕事と社会」を中心に、学生が専門分野と社会・仕事とのつながりを理解できるよう授業を実施した。就職・キャリア委員会では、2027年度からの新しいキャリア教育プログラムへの移行を見据え、キャリア教育の位置づけや授業案について共有・検討した。
	② 5月下旬から学生への電話かけを開始し、進路未報告者・未内定者の状況把握を進めた。月次の就職・キャリア委員会で進路状況を共有し、委員から学生への周知や学科との情報連携を依頼した。
	③ キャリア研修Ⅰ・Ⅱについて、Ⅱからの参加も可能であることをチラシに明記し、学生に分かりやすく周知した。説明会は参加を必須とし、参加機会を確保するため3日間実施した。説明会では研修担当講師が来校し、過年度参加者の声を交えながら内容を説明し、申込みを促した。
	④ 学部3年生全員面談を4月21日から実施し、予備期間の設定、不参加者リストの学科共有、メール連絡等により参加を促した。夏休みにはキャリアセンター内の改装・レイアウト変更を行い、学生が相談しやすい環境整備にも取り組んだ。
	⑤ 委員向け勉強会について、前年度アンケートを踏まえて講話者・テーマを検討し、12月・2月の実施予定を共有した。2月には松井委員による「キャリア教育の向上に向けた現状と課題」の講演を実施した。
	⑥ ガイダンスや講座情報は、学生ネットサービス、クラスルーム、Teamsの「講座案内」、チラシ配布等を通じて周知した。就活キックオフガイダンス、公務員講座、TOEIC Bridge、出前グループディスカッション等の講座を年間で案内した。
	⑦ 保護者対象就職説明会の開催時期を検討し、採用活動の早期化やインターンシップ開始時期を踏まえ、2026年度は5月に実施する方針とした。
	⑧ 6月と11月の2回「仕事と社会」の時間内で、各4社の企業の方をお呼びして業界研究を行った。1月は9社2月は12社の企業と連携して学内合同企業セミナーを行った。
	⑨ IRが作成した卒業生アンケートおよび企業アンケートの集計データを基に、就職・キャリア委員会で結果を共有した。卒業生・企業双方の回答内容から、就職支援や学生の社会人基礎力に関する現状を確認し、今後の支援に活かすべき課題について委員間で共有を図った。
	⑩ 就職・キャリア委員会で資格関係の報告を行い、「就職に役立つ資格」リーフレットや学生便覧の資格記載について確認・校正を進めた。資格奨励金についても、卒業年次生への申請周知や次年度制度の確認を行った。

事業 内 容	2. 点検・評価 (Check) ① 「専門と社会」「仕事と社会」を通じて、専門教育と社会的・職業的自立を結びつけるキャリア教育を継続できた。あわせて、2027年度から予定されている新しいキャリア教育プログラムへの変更に向け、現行科目の役割や今後の教育内容を整理する必要性を確認した。 ② 電話かけを早期に開始し、進路不明者を12月時点でゼロにできた。一方で、2026年1月時点の内定率は大学82.9%・短大60.9%、2月時点で大学87.9%・短大63.5%であり、年度後半も個別学生への継続支援が必要であることを確認した。 ③ キャリア研修Ⅰは、説明会参加者、研修申込者、履修者数がいずれも定員をやや下回った。一方、ⅠからⅡへの継続参加に加え、Ⅱからの参加も可能であることを明確に周知した結果、キャリア研修Ⅱでは説明会参加者、研修申込者、履修者数がいずれもⅠを上回った。 ④ 全員面談は、早期支援が必要な学生の把握に有効であった。未参加者には予備期間の設定や一斉メールで対応し、参加促進を図ったが、キャリアセンター利用につなげるためには、面談後の継続的な接点づくりが引き続き課題である。 ⑤ 企業人事担当者から採用事情や学生に求める力を聞く勉強会に加え、キャリア教育の現状と課題に関する講演を実施し、委員間でキャリア教育・就職支援の課題を共有できた。今後も委員のニーズに合わせたテーマ設定が有効である。 ⑥ 就活キックオフガイダンスは258名が参加し、87%が「よかった」と回答した。講座情報を複数経路で周知したことで一定の参加につながった一方、企業説明会や面接を欠席する学生への意識づけ、必要な学生に情報を確実に届ける工夫が課題である。 ⑦ 5月開催により就職活動の早期化には対応できたが、学科説明会で発表する内定者の確保が難しいことが分かった。開催時期については、内容構成や登壇者確保の観点からさらに検討する必要がある。 ⑧ 学内合同企業セミナーは、学生が参加しやすいよう複数回・複数社で計画し、対象学生への葉書送付など周知方法を工夫した。ただし、学生の参加促進と企業選定の工夫は継続課題であり、参加学生に企業の魅力を伝える方法の検討が必要である。 ⑨ 企業アンケートの回答率は2025年度23%、卒業後アンケートの回収率は13%であり、いずれも2023年度以降、毎年約1.5ポイントずつ低下している。回答内容は就職支援や教育改善に有用である一方、継続的に活用するためには回答・回収率の向上が課題である。 ⑩ 資格リーフレットと学生便覧の資格記載を確認し、資格取得奨励金についても周知を行った。卒業後アンケート・企業アンケートでは、資格取得やコミュニケーション能力の重要性が示され、資格取得支援を就職支援に結びつける必要性を確認した。
	3. 課題と次年度の改善目標 (Action) ① 2027年度から新しいキャリア教育プログラムに変更される予定であるため、2025年度に実施した「専門と社会」「仕事と社会」の成果と課題を踏まえ、キャリア教育専任教員、非常勤教員、キャリア委員、就職支援部が連携して、移行後の教育効果を高めることを目標とする。 ② 内定率は上昇傾向にあるものの、就職希望率や内定報告の遅れ、連絡がつながりにくい学生への対応が課題である。次年度は早期から学生の進路意思を把握し、学科・ゼミ教員・キャリアセンターの連携をさらに強化する。 ③ 2028年度からキャリア研修Ⅰ・Ⅱが統合され「キャリア研修」となる予定である。統合前の2026・2027年度は、統合後の内容を見据えて研修内容を精査し、必要に応じて内容の見直しや研修実施先の新規開拓を進める。 ④ 全員面談をキャリアセンター利用につなげるため、面談参加率の向上だけでなく、面談後に相談へ移行しやすい導線づくりが課題である。学生が気軽に入れる雰囲気づくりと、必要な学生への個別フォローを強化する。 ⑤ 就職・キャリア委員会での勉強会は一定の効果があつたが、参加委員が学科で実際に学生支援へ活かせる内容とするため、テーマ・時期・講師選定をさらに工夫する必要がある。委員からの意見を踏まえ、実践的な内容に改善する。 ⑥ 講座やガイダンスは多様に実施しているが、学生に情報が届いても参加行動につながらない場合がある。学生のニーズや学年・学科特性に応じて、周知方法、実施時期、教員からの声かけを見直す。 ⑦ 保護者対象就職説明会は、3年生春学期のみの開催に限定せず、秋学期開催や学年を問わず参加できる形式など、保護者のニーズと就職活動時期に応じた柔軟な実施方法を検討する。 ⑧ 学内合同企業セミナーは、参加企業数や開催方法を工夫したものの、学生の集客と継続参加が課題である。学生にとって魅力が伝わる企業選定、事前周知、対象学生への個別案内を強化する。 ⑨ 卒業生アンケートおよび企業アンケートを今後の就職支援や保護者対応に活かすため、回答・回収率の向上を次年度の改善目標とする。回答依頼の方法や時期、周知文面を見直し、対象者が回答しやすい仕組みを検討する。 ⑩ 資格取得支援について、資格リーフレット・学生便覧・資格奨励金制度を連動させ、学生の取得意欲を高める必要がある。就職に役立つ資格を学科別に整理し、講座や制度の周知をより分かりやすく行う。
	4. 改善に向けての具体的な計画 (Plan) ① 2026年度は、2027年度からの新しいキャリア教育プログラムへの移行を見据え、「専門と社会」「仕事と社会」で扱った内容を整理し、学生が専門分野と仕事・社会の関係を段階的に理解できるよう、授業内容、担当体制、周知方法を関係者間で確認する。 ② 5月以前から進路意思や就職希望状況を把握できるよう、卒業年次生への初期確認を早める。電話かけの結果は委員・学科・ゼミ教員と共有し、未報告者や未内定者にはキャリアセンター相談へつなぐ。 ③ 2028年度の統合を見据え、2026・2027年度中に新しい「キャリア研修」の実施内容を整理する。既存の研修実施企業との調整に加え、新規企業の開拓を進め、統合後に実施可能な研修先を選定する。 ④ 全員面談の案内時に、面談後の相談予約方法やキャリアセンターで受けられる支援を明確に示す。未参加者には予備期間、メール、学科経由の声かけを組み合わせ、面談後も必要な学生を継続フォローする。 ⑤ 勉強会は、年度前半に委員への希望調査を行い、企業人事、卒業生支援、キャリア教育、配慮を要する学生支援等からテーマを選定する。実施後は簡易アンケートを取り、案内内容に反映する。 ⑥ 講座案内は学生ネットサービス、クラスルーム、Teams、掲示、学科教員からの声かけを組み合わせる。対象者が明確な講座は学科・学年別に周知し、必要に応じてゼミ担当教員から直接申し込みを促す。 ⑦ 保護者対象就職説明会について、開催時期、対象学年、実施方法、内容構成を就職・キャリア委員会で継続的に検討する。アンケート結果や内定者確保の状況を踏まえ、保護者にとって有益な説明会となるよう改善する。 ⑧ 学内合同企業セミナーは、卒業生を受け入れている企業や学生の志望分野に合う企業を中心に選定し、少人数型・複数回型など参加しやすい方式を検討する。対象学生には事前案内と個別声かけを行い、参加後の相談につなげる。 ⑨ 就職・キャリア委員会において、卒業生アンケートおよび企業アンケートの回答・回収率向上に向けた方策について意見交換を行う。依頼時期、依頼方法、学科・関係部署との連携方法を整理し、次回実施時に反映できる改善策を検討する。 ⑩ 「就職に役立つ資格」リーフレットと学生便覧の記載を見直し、就職支援の観点から推奨資格を整理する。資格奨励金制度、学内講座、公務員講座、日商簿記講座等と連動させ、学生が取得計画を立てやすい形で周知する。

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価	評価シート7	組織名称（評価单位名称）	委員会・センター
カテゴリー	学生募集		
担当委員会・センター（構成員数）	入学センター（14名）／新宿キャンパス入試広報委員会（30名）		
担当部署	大学事務局新宿キャンパス入試広報部		
記載責任者（役職）	今野 裕之（入学センター運営委員会委員長）／長崎 秀俊（入試広報委員会委員長）		
会議概要（実績回数）	入学センター運営委員会（5回）、入試広報委員会（9回）		
添付エビデンス	入学案内、各種募集要項		

項目	2024年度 自己点検評価
事業内容	課題と2025年度の改善目標（Action） ①【募集活動】2024年度は、入試担当が担当する学内の業務と両立するため、高校の所在地や入学実績などを考慮しながら効率的に高校訪問や進学ガイダンスへの参加を行った。高校訪問及び進学ガイダンスは、高校教員、受験生の重要な情報源であるため、2025年度も引き続き入試担当が外出しやすい環境づくりと効率的な訪問先の検討を推進する。 ②【入学者選抜日程】過去2年、入学定員を上回る入学者数を確保できた。2026年度入試はこれらの変更後3年目にあたり、2026年度入学者選抜の日程は、原則的に2025年度入試の入学者選抜日程を踏襲し、改善を要する点のみ見直しする。 ③【年内選抜（総合・推薦）】2025年度入学者選抜に引き続き、総合型選抜及び学校推薦型選抜により入学定員の8割（新宿：884名）を超えて確保することを目指す。 ④【一般選抜】受験生に併願校として選んでもらうため、③と同様に高校、受験媒体、受験生応援サイトなど多方面に向けて情報発信を行い、志願者確保を目指す。前期日程の入学者数は大きな割合を占めるため、入学者数の確保と偏差値の維持を両立できるよう慎重に可否判定を行う。また、中期以降の受験者数を確保するため、一般選抜B日程及び一般選抜C日程に外部英語検定試験併用型を新設する。 ⑤【OC】2024年度の実験生来場者数（大学：4～8月 のべ6,713人）を超えることを目指す。 ⑥【HP（受験生応援サイト）】受験生応援サイトにおいて、受験生の動向に即したプログラムを随時発信する。オープンキャンパスに参加できなかった受験生でも本学の特長が理解できるように、興味をもてる情報を発信していく。 ⑦【制作物（紙）】受験生等が情報収集するうえで、受験生応援サイトの情報と紙の入学案内を併用している。本学の学びを効果的に発信していくため、媒体の特長を活用しながら、理解しやすく志望度アップにつなげられる制作物を目指す。 ⑧【広告】受験生が利用する進学情報サイト（リクルート、マイナビ、ベネッセ、Studyplus等）を活用し、効率的に本学の受験生応援サイトに誘導する環境作りを継続する。広告掲出後の本学ホームページへのアクセス・イベント参加・出願などの数値を計測し、対象となるターゲットにむけてWEB広告を発信する。また、進学アクセスオンライン、Studyplus Marketing PlatformやGoogleアナリティクス4等のWeb分析システムのデータを活用し、より効果がある媒体広告の選定と展開を行う。 改善に向けての具体的な計画（Plan） ①【募集活動】高校訪問及び進学ガイダンスへの参加は、引き続き首都圏を中心に行う。入学者数の実績から重点校及び優先校を設定して優先的に訪問し、高校との信頼関係を一層厚くする。進学ガイダンスでは、本学の特長を伝えながらオープンキャンパスの来場を促し、前年を上回る来場者数を目指す。 ②【入学者選抜日程】2025年度入学者選抜の実験状況等を踏まえ、2026年度入学者選抜（新宿）の日程において以下の点を見直す。①総合型選抜実施日程の追加（人間福祉学科：B日程）・廃止（韓国語学科：C日程）②募集人員割振りの変更③推薦基準（学習成績の状況＜評定平均値＞）等の変更④総合型選抜A日程エントリー時の提出書類の見直し⑤一般選抜B日程及び一般選抜C日程に外部英語検定試験併用型を新設⑥チャリーディング推薦型の出願資格の見直し⑦中国語学科大学入学共通テストの科目の見直し ③【年内選抜（総合・推薦）】総合型選抜、学校推薦型選抜の志望者は、オープンキャンパスに参加して学びを理解したうえで出願先を決める傾向にあるため、本学のオープンキャンパスへの来場を促進するとともに来場時に出席意欲が高まるようなプログラムを企画・実施する。 ④【一般選抜】一般選抜の志望者は、進学ガイダンスにおける説明、受験媒体やHPの情報から志望校を検討しているため、受験生の選択肢から漏れないように、高校や塾への訪問、進学情報サイト、WebDM、SNS等を中心とした情報発信を行う。また、12月のOCにおいて「一般選抜対策講座」を実施し、受験を検討している受験生の志望度を高めて一般選抜の志願者減少に歯止めをかける。 ⑤【OC】開催日程は、2024年度をベースとしつつ、高3生向けの模試実施日、高校の期末考査、文化祭及び本学の試験期間を考慮して設定する。8月は2025年度と同時期開催（8月第1週目の金・土）とし、他大学との日程被りを避ける。 2024年度では、各回に外部業者による進路ガイダンスや入試に直結する講座（面接講座、プレゼン講座など）がいずれも好評であったため、2025年度も継続する。さらに気軽に来られるオープンキャンパスを目指し、来場者が楽しく本学を知ることができるコンテンツを企画する。 ⑥【HP（受験生応援サイト）】2024年度に注力したコンテンツのほか、卒業生インタビューのページを新設して、内容を充実させる。 ⑦【制作物（紙）】Web媒体と紙の特長を生かすため、本学の概要に係る情報は紙の制作物に掲載し、情報量が多い場合や変更が生じやすい内容である場合にはWEBに掲載するなど、それぞれの特性に合わせた発信をする。 郵送費の高騰など費用が上昇傾向にあるため、制作物の質を維持しつつページをスリム化して重量を軽くするなど効果的な対策を検討する。 ⑧【広告】受験生の資料請求やイベント参加の情報を蓄積し、本学への志願者動向を把握・管理する。 学習管理アプリに参画し、アプリ上で本学の周知及び在学生インタビューを中心にした魅力の発信する。 アクセス解析やハウスリストへのメール・LINE配信代行及びクリエイティブ作成代行を通して、受験生のニーズ・動向を把握し、本学サイトへのアクセス誘導及びイベント参加を促進する。

項目	2025年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入
1. 取組状況（Do）	①【募集活動】 高校訪問及び進学ガイダンスは、入学者数が多い一都三県に重点校（総合型選抜又は学校推薦型選抜による入学者が3名以上：163校）、優先校（総合型選抜又は学校推薦型選抜による入学者が1名以上：195校）を設定した。特に3～7月は、オープンキャンパスの来場者数増を目指し、開催の周知に注力した。また、首都圏を中心とした高校教員との信頼関係の維持及び構築に努めた。 ②【入学者選抜日程】 年内入試は、各学科の前年度入学実績を踏まえて日程を配置した。（総合A:9/21、総合B:10/12、推薦:11/16、総合C:12/14） 学科別では、人間福祉学科（総合型選抜B日程を追加）と韓国語学科（総合型選抜C日程を廃止）が日程を追加・変更した。 一般選抜は、他大学の試験日程を視野に入れて設定した。前年度入試と同じ時期（1/31、2/4、2/19、3/6）に配置した。

③【年内選抜(総合・推薦)】

総合型選抜では、前年度の志願状況を踏まえて、学科ごとに試験日程を配置した。

学校推薦型選抜では、本学を志望する優秀な受験生を取り込むため、前年度の入学実績を踏まえて指定校及び公募の評定平均値を設定した。

④【一般選抜】

中期・後期日程の受験促進を目的として、一般選抜B・C日程の加えて外部英語検定併用方式を新たに追加した。

⑤【OC】

オープンキャンパスは、4月、6月、7月、8月上旬(2日間)、8月下旬の合計6回開催した。受験生の来場者数は累計で6,680名で前年度を上回ることができた。(前年度比:108%)

⑥【HP(受験生応援サイト)】

WEB媒体から流入してくることを想定し、本学を多角的に理解できるようにコンテンツを充実させた。('学問ラボ'→教員の研究実績を伝えるコンテンツとして定期的に更新、「ゼミNavi!」→ゼミの学びや雰囲気、先生を紹介、「MEJINAVI」→一般選抜の合格者及び次年度に受験を検討している接触初期の受験生をターゲットとして、本学の魅力を分かりやすく表現し、入学手続きの促進および本学への志望度向上を図る)

⑦【制作物(紙)】

<入学案内>本学の学びの取組や特長を学生インタビューを通じて紹介するなど、分かりやすい紙面づくりを行ったほか、QRコードを活用してページ数をスリム化した。また、進学ガイダンスの説明で受験生の興味・関心を引く工夫として、目白大学のTOPICSページを設置、「就職に強い」イメージを持ってもらう工夫、内定者インタビューページ等を設け、ランディングページに連動させた。<OCチラシ>各時期の告知内容に併せて制作した。

⑧【広告】

Web広告媒体からの本学HPへのアクセスを強化する中で、Web分析ツールを複数用いて、サイト遷移・イベント来場・出願へのアクセス解析を行い、より効果がある企画の選定と掲載時期の検討に注力した。

2. 点検・評価(Check)

①【募集活動】

(高校訪問及びガイダンスの選定)訪問する高校を入学実績から選定した結果、重点校からの入学者は90.1%、優先校からの入学者は62.5%を確保することができた。

(ガイダンス)学科の特長やオープンキャンパスの内容を説明し、オープンキャンパスへの来場を促した。高校訪問及びガイダンスの取組により、オープンキャンパス(新宿)への参加を動機づけることができ、来場者数が前年を上回った。(来場者数前年比:109%)

②【入学者選抜日程】

年内入試(新宿)の日程は、総合型選抜が前年度の出願者数を上回り、学校推薦型選抜がほぼ横ばいだった。(総合:111%、推薦:99%)

一般選抜のうち、前期日程の志願者数は減少(全学部統一:前年比78%、一般A:前年比81%)したが、一般B・C日程に新設した外部英語検定利用方式で受験者数が前年を上回った。(一般B日程:前年比114%、一般C日程:前年比107%)

③【年内選抜(総合・推薦)】2026年度入試(新宿)は、総合型選抜A・B日程でそれぞれ前年度を上回って入学者を確保できた。(A日程:110%、B日程:109%)C日程は推薦の合格発表後に出願できるようにスケジュールを組んだことにより、入学者数は前年度を上回った。(前年度比:121%)

④【一般選抜】

年内入試による確保が堅調だった学科があったことから、一般選抜(新宿)の合格者を抑えた学科があった。(全学部統一:347人(前年度:410人)、一般A:242人(前年度:286人)、共通A:195人(前年度:288人)、共通学部検定:280人(前年度:276人)ただ、全学部統一など前期日程の入学率が好調で前年度に比べて上昇した。(全学部統一:26%(前年度:16%)、一般A:42%(前年度:40%)、共通A:11%(前年度:10%)、共通学部検定:11%(前年度:5%))

⑤【OC】

・受験生の来場者数(4~8月)は、前年度を上回ることができた。(前年比:109%)

・オープンキャンパスの来場者数増加策として、進学情報サイトやWEB広告等からホームページにアクセスするまでの導線を強化した。本学の学びに興味をもった受験生が知りたい情報を得やすくするため、ホームページのコンテンツを拡充し、予約に結び付けれる環境を整備した。

当日は、学科説明や模擬授業で「学科の学び」を知るプログラムを実施したほか、学科紹介ブースで教員や学生とのコミュニケーションを通じて受験生が学びを理解できるように努めた。これらの取組により、前年を超える来場者の確保と来場者アンケートにおける高い満足度を得られた。(満足度:93%)

⑥【HP(受験生応援サイト)】

WEB媒体による情報発信とWEB媒体からホームページへの導線を構築したことにより、アクセス数が増加した。主なページ(タイトル)の状況は次のとおり。「オープンキャンパス」のユーザー数:177,598(前年比134%)、入学者選抜においては年内入試のPV数が増加(総合型選抜:前年比120%、学校推薦型選抜:前年比109%)。年内入試に重点を置いた広報戦略の効果が表れた結果となった。

⑦【制作物(紙)】

入学案内には、本学の取組や特長をわかりやすく掲載し、アンケートの結果、約84%が「大変満足」又は「満足」の回答を得ることができた。

紙の媒体は、資料請求者への郵送や進学ガイダンスで受験生に手渡す資料として活用した。QRコードを設置することで、Webに移行しやすい環境が向上した。

⑧【広告】

パラメーターを用いたアクセス解析を行い、各広告の効果測定を図る中で広告媒体の掲載時期・エリア・年齢等のターゲティングを細かく行えた。

3. 課題と次年度の改善目標(Action)

①【募集活動】

2026年度入学者選抜が入学定員を上回ることができたことを踏まえ、2025年度の高校訪問及びガイダンスの参加実績と入学実績の相関を分析し、これを2026年度の訪問活動に活用する。

②【入学者選抜日程】

過去4年、入学定員を上回る入学者数を確保できた。2027年度入試は、原則的に2026年度入試の入学者選抜日程を踏襲し、改善を要する点のみ見直しする。

③【年内選抜(総合・推薦)】

2026年度入学者選抜に引き続き、総合型選抜及び学校推薦型選抜により入学定員の8割(新宿:884名)を超えて確保することを目指す。

④【一般選抜】

受験生に併願校として選んでもらうため、③と同様に高校、受験媒体、受験生応援サイトなど多方面に向けて情報発信を行い、志願者確保を目指す。前期日程の入学者数は大きな割合を占めるため、入学者数の確保と偏差値の維持を両立できるよう慎重に合否判定を行う。また、中期以降の受験者数を確保するため、一般選抜B日程及び一般選抜C日程の外部英語検定試験併用方式を継続する。

⑤【OC】

2025年度の受験生来場者数(大学:4~8月)のべ6,680人)を超えることを目指す。

⑥【HP(受験生応援サイト)】

受験生応援サイトにおいて、受験生のニーズやトレンドに合わせページ設計を行う。

オープンキャンパスに参加できなかった受験生でも本学の特長が理解できるように、興味をもてる情報を発信していく。

⑦【制作物(紙)】

受験生等が情報収集するうえで、受験生応援サイトの情報と紙の入学案内を併用している。本学の学びを効果的に発信していくため、媒体の特長を活用しながら、理解しやすく志望度アップにつなげられる制作物を目指す。

⑧【広告】

受験生が利用する進学情報サイト(リクルート、マイナビ、ペネッセ、Studyplus等)を活用し、効率的に本学の受験生応援サイトに誘導する環境作りを継続する。

学習管理アプリユーザーに対し、アプリ上で本学の周知及び在学生インタビューを中心にした魅力の発信する。

受験生の資料請求やイベント参加の情報を蓄積し、本学への志願者動向を把握・管理する。

4. 改善に向けての具体的な計画(Plan)

①【募集活動】

高校訪問及び進学ガイダンスへの参加は、入学者数の実績から首都圏を中心に重点校及び優先校を設定して優先的に訪問する。韓国学部を設置など本年度のトピックスを説明するとともに、各高校のヒアリングしていく中で信頼関係を一層厚くする。進学ガイダンスでは、受験生が志望する学科の特長を伝えながらオープンキャンパスへの来場を促す。

②【入学者選抜日程】

2026年度入学者選抜の受験状況、韓国学部設置、入学定員の見直し等を踏まえ、2027年度入学者選抜(新宿)の日程において以下の点を見直す。①募集人員割振りの変更 ②推薦基準(学習成績の状況<評定平均値>)等の変更 ③チアリーディング推薦型の出願資格の見直し

③【年内選抜(総合・推薦)】

総合型選抜、学校推薦型選抜は、次の施策により確保を目指す。①募集人員割振りの変更②推薦基準(学習成績の状況<評定平均値>)等の変更 ③チアリーディング推薦型の出願資格の見直し④メディア学科の公募推薦(後期)を廃止し、総合C日程を導入

④【一般選抜】

一般選抜の志望者は、進学ガイダンスにおける説明、受験媒体やHPの情報から志望校を検討しているため、併願を前提とした受験生の選択肢から漏れないように、高校や塾への訪問、進学情報サイト、WebDM、SNSなど多方面に情報を発信する。また、12月のOCにおいて「一般選抜対策講座」を実施し、本学の受験を検討している受験生の志望度を高める。

⑤【OC】

開催日程は、2025年度をベースとしつつ、高3生向けの模試実施日、高校の期末考査、文化祭及び本学の試験期間を考慮して設定する。8月は2025年度と同時期開催(8月第1週目の金・土)とし、他大学との日程被りを避ける。

2025年度では、各回に外部業者による進路ガイダンスや入試に直結する講座(面接講座、プレゼン講座など)がいずれも好評であったため、2026年度も継続する。気軽に来場してみようと思えるオープンキャンパスを目指し、楽しく本学を知ることができるコンテンツを企画する。

⑥【HP(受験生応援サイト)】

受験生のニーズやトレンドに合わせページ設計を行う。(OCページのTOPICS、動画などを定期的に更新する)

・SNSや媒体における発信、バナー広告のリンク先として活用できるコンテンツを更新する。('ゼミNavi!','学問ラボ','飛躍の目白')

⑦【制作物(紙)】

Web媒体と紙の特長を生かすため、本学の概要に係る情報は紙の制作物に掲載し、情報量が多い場合や変更が生じやすい内容である場合にはWEBに掲載するなど、それぞれの特性に合わせた発信をする。

郵送費の高騰など費用が上昇傾向にあるため、制作物の質を維持しつつページをスリム化して重量を軽くするなど効果的な対策を検討する。

⑧【広告】

広告掲出後の本学ホームページへのアクセス・イベント参加・出願などの数値を計測し、対象となるターゲットにむけてWEB広告を発信する。また、進学アクセスオンライン、Studyplus Marketing PlatformやGoogleアナリティクス4等のWeb分析システムのデータを活用し、より効果がある媒体広告の選定と展開を行う。

アクセス解析やハウスリストへのメール・LINE配信及びクリエイティブ作成を通して、受験生のニーズ・動向を把握し、本学サイトへのアクセス誘導及びイベント参加を促進する。新規接触者獲得のため、効果的なセグメントを設定したWeb・LINE広告および教育媒体業者のWebDM等を用い、本学の認知および本学サイトへの誘導を促進する。

2025 年度 目白大学短期大学部 自己点検評価年次報告書

編集：目白大学・目白大学短期大学部内部質保証委員会（短期大学部部会）

発行：2026 年 7 月